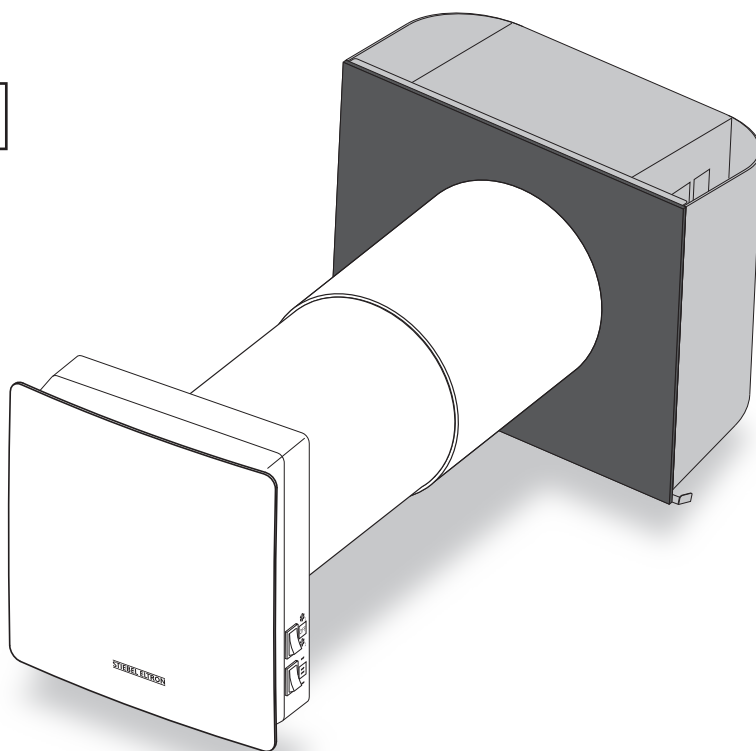
ダクトレス
第一種熱交換換気システム

取扱説明書

（取付説明書・保証書付）

STIEBEL ELTRON

型名：LT-50
（LT-50S, LT-50W）

取付説明書はP23からです

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●ご使用前に「安全上のご注意」（P1）を必ずお読みください。
●この取扱説明書は、いつでも見ることができるところに保管してください。

日本スティーベル株式会社

目次

取扱説明書

取付説明書

1. 安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害の程度を次の区分で表示しています。

警告 誤った取扱いをしたときに、死亡、または、重傷に結びつく可能性があるもの。	**注意** 誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

■本文中に使われている図記号の意味は次のとおりです。

禁止マーク	してはいけないことを示します。
注意マーク	注意することを示します。
指示マーク	必ず行なうことを示します。

警告

禁止

絶対に改造はしないでください。

濡れた手で機器を操作しないでください。

機器に水をかけないでください。また、機器が災害等により、濡れてしまった場合は、使用しないでください。

機器の近くに、ガス類等の可燃性物質や爆発の恐れがある物質を保管しないでください。

機器の離隔距離の範囲内に物を掛けたり、設置したり窓等の開口部がないようにしてください。

	上面	下面	左面	右面	前面
離隔距離	≧380mm	≧380mm	≧380mm	≧380mm	≧800mm

機器は、お手入れ中以外は、止めないでください。

指示

機器に異常が発生した場合は、機器の電源をOFFにし、ブレーカを「切」(OFF)にしてお客さまセンターに修理を依頼してください。

補強を行なっていても震災、その他の天変地異で転倒する可能性があります。万が一壁から外れた場合は、下記の①〜③を実施の上、お客さまセンターにご連絡ください。

① 機器の電源ブレーカを「切」(OFF)にしてください。
② 落下物がある場合は取り除いてください。
③ 建物が揺れている間は、機器に近づかないでください。

アース工事、漏電遮断器設置工事が行われていることを確かめてください。

本体設置用プレートが正しく取付けられ、機器がしっかりと壁面に固定されていることを確かめてください。

機器の設置、移設は、必ず専門業者に依頼して行なってください。

子供や身体に障害がある人が機器を操作する場合は、監督者の管理のもと、または、安全管理者による適切な指導を受けた上でご使用ください。

注意

禁止

機器に荷重を掛けたりしないでください。

ファンが故障して動いていない場合は、そのまま使用しないでください。

注意

点検清掃をする場合は、怪我をしないように気を付けてください。

機器運転中は、本体設置用プレートから機器本体を外さないでください。

指示

機器を覆うようにカーテン等を設置しないでください。

機器の許容周囲温度の範囲内でご使用ください。

全熱交換素子やフィルターが詰まると、故障の原因となりますので定期的に掃除をしてください。

全熱交換素子は、決して水で濡らさないでください。

全熱交換素子やフィルターの点検清掃をする場合は、必ずブレーカを「切」(OFF)にしてから行ってください。

機器の所有者が変わる場合には、必ず本取扱説明書を新しい所有者に引き継ぎ保管できるようにしてください。

2. 本製品の特長

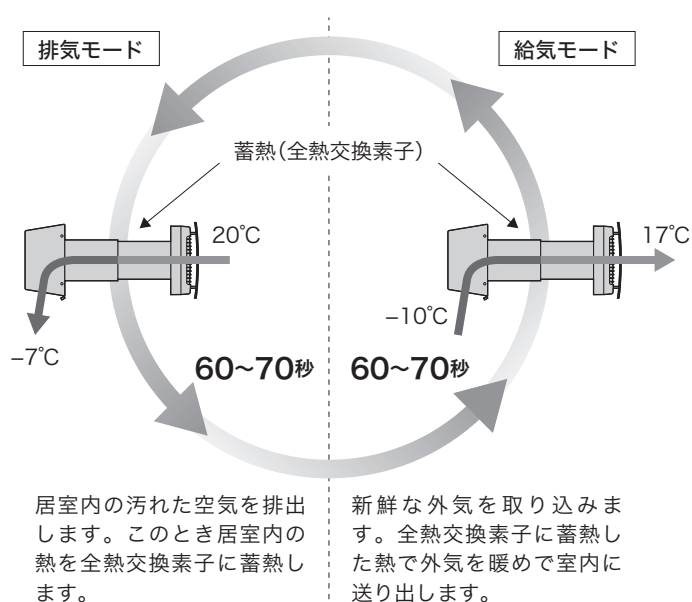
●送風機を利用して、4つの給排気の運転モードを選択することができます。
●換気による熱ロスを少なくする除湿運転、夜間運転モードがあります。
●設定風量は、3段階に変更することができます。
●付属の専用リモコンは、除湿運転や夜間運転モード、風量設定、給排気の運転モードを設定できます。
●特許申請中のセラミック蓄熱体を採用し、エンタルピ交換効率92%(冷房時)を実現。温度と湿度の両方を交換し、冷暖房コストの削減につながります。
●高性能の12VDCモーターを採用することで消費電力を抑え、稼働音は40dB以下と、ささやくような静かな稼働音です。
●付属の専用の外気フードは、現代のインテリア・エクステリアにマッチしたモダンなデザインです。

■LT-50のユニークな熱交換方法"熱交換モード"

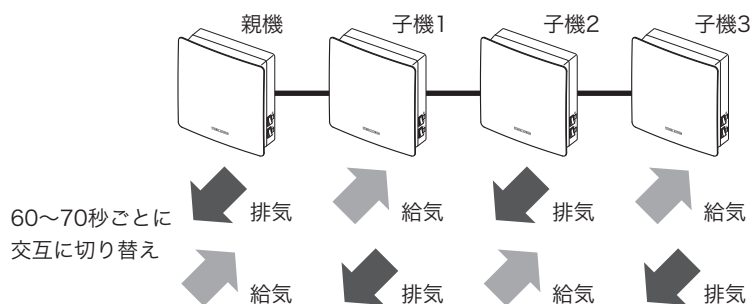
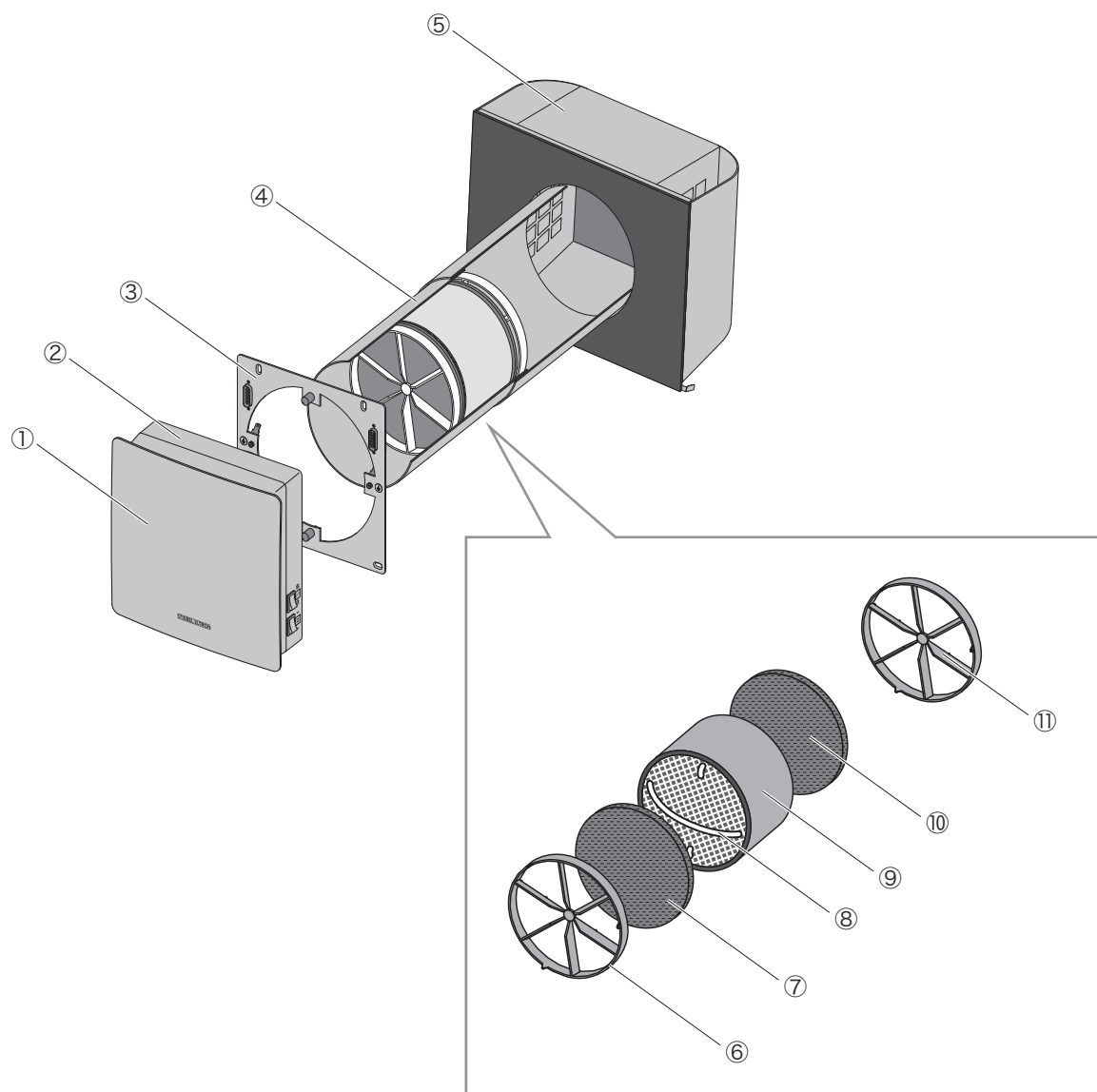
LT-50の給排気では、まず居室内の汚れた空気を60〜70秒間排気します。その際にパイプ内部の全熱交換素子に居室内の熱を蓄熱します(排気モード)。60〜70秒後ファンが逆回転し、今度は新鮮な外気を60〜70秒間取り込みます。その際に全熱交換素子内に蓄熱された熱と熱交換を行い、室内温熱条件に近い空気に変換してから給気します(給気モード)。このサイクルを何度も繰り返すことで、一台で給気と排気と熱交換を行うことができるのです。
換気による熱ロスも少なく、空気を常に新鮮に保つことができます。

排気モード
給気モード
蓄熱(全熱交換素子)
20℃
17℃
−10℃
−7℃
60~70秒
60~70秒

居室内の汚れた空気を排出します。このとき居室内の熱を全熱交換素子に蓄熱します。

新鮮な外気を取り込みます。全熱交換素子に蓄熱した熱で外気を暖めで室内に送り出します。

■熱交換モードでの各装置の動作について

熱交換モードでは、各装置が60〜70秒ごとに排気モードと給気モードを交互に繰り返します。本製品には親機と子機があり、親機のモードに合わせて、子機のモードは自動的に切り替わります。例えば親機1台と子機3台で構成されている場合、親機が給気モードで動作中、子機のうちの1台は給気モードで動作し、残りの子機2台は排気モードで動作します。このように半分ずつに別れて給気と排気を繰り返すことで、室内全体の室温を保ちながら均等に空気を換気することができます。

親機　子機1　子機2　子機3
60〜70秒ごとに交互に切り替え
排気　給気　排気　給気
給気　排気　給気　排気

3. 各部のなまえ

①:前面カバー

②:機器本体

③:本体設置用プレート

④:パイプ

⑤:外気フード

⑥:整流翼

⑦:フィルター(手前側)

⑧:引き出しワイヤー

⑨:全熱交換素子

⑩:フィルター(奥側)

⑪:固定整流翼

■機器本体のスイッチ

機器本体の右側面に、風量切替スイッチと運転モードスイッチがあります。

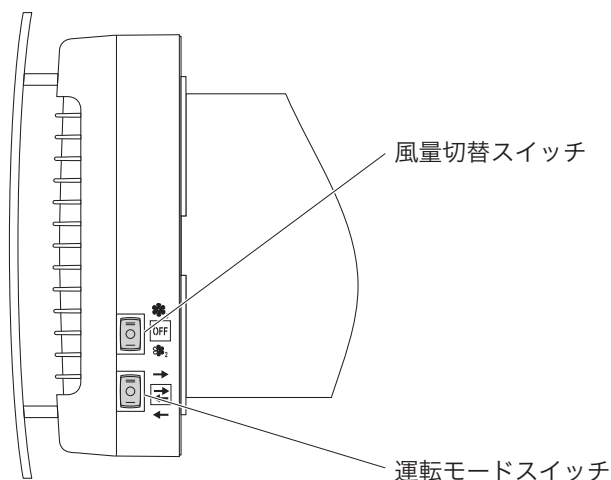
風量切替スイッチ

運転モードスイッチ

風量切替スイッチ

- 3：風量「強」で換気
- OFF：換気を中止
- 2：風量「中」で換気

運転モードスイッチ

- →：「排気モード」で運転
- ⇄：「熱交換モード」で運転
- ←：「給気モード」で運転

■付属リモコン

各ボタンの詳しい内容は、次ページを参照してください。

換気オン/オフボタン

夜間運転モードボタン

風量切替ボタン

強(50m³/h)　中(31m³/h)　弱(21m³/h)

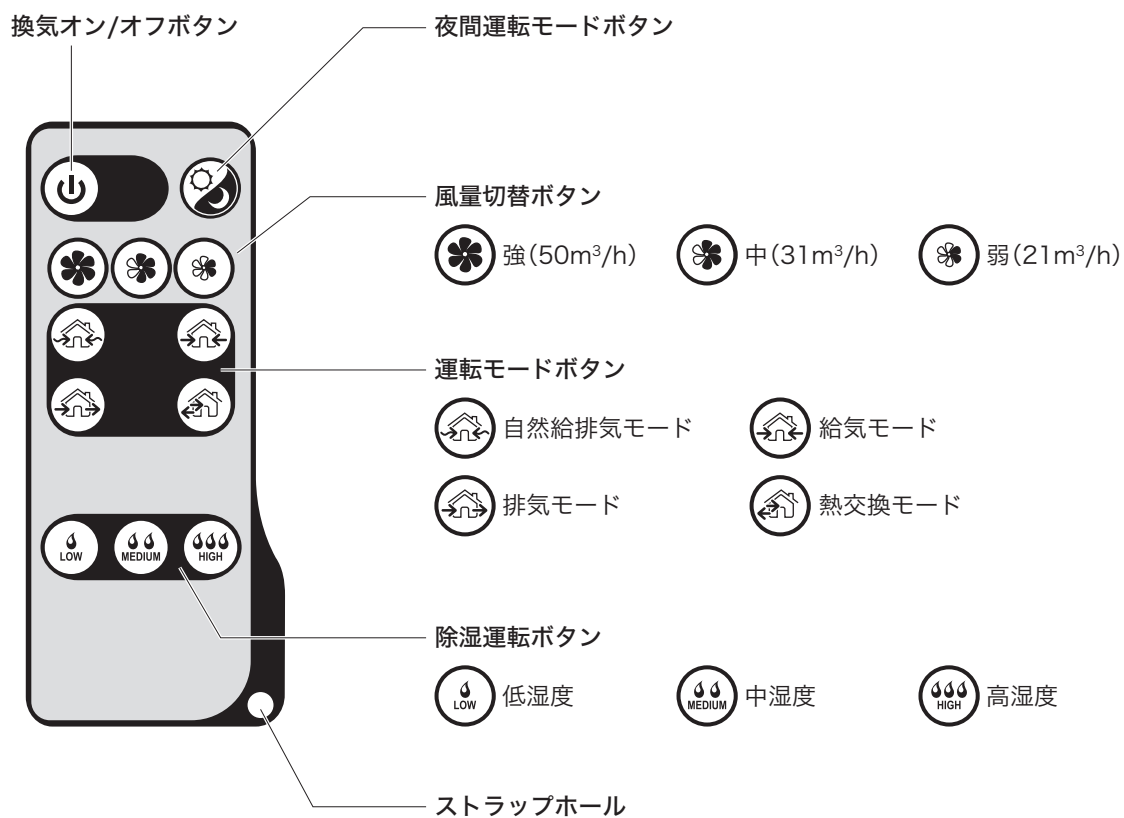
運転モードボタン

自然給排気モード　給気モード

排気モード　熱交換モード

除湿運転ボタン

LOW 低湿度　MEDIUM 中湿度　HIGH 高湿度

ストラップホール

4. 使用方法

4-1. 風量と運転モードについて

本製品は、3種類の風量と、6種類の運転モードを設定できます。機器本体の右側面にあるスイッチまたは、付属のリモコンを使って設定します。機器本体のスイッチでは設定できる風量と運転モードが限定されます。

■風量一覧

風量	アイコン		風　量
	本体	リモコン	
強			$50m^3/h$で換気します。換気量が多い風量です。
中			$31m^3/h$で換気します。標準的な換気量です。
弱	設定不可		$21m^3/h$で換気します。換気量が少ない風量です。夜間など人が不在の場合などにお勧めします。動作音も小さくなります。
停止	OFF		運転を停止します。通常は使用しません。お手入れのときなど、運転を停止したいときに使用します。リモコンでは、このボタンを押すたびに運転の開始と停止ができます。

■運転モード一覧

運転モード	アイコン		機器の動作
	本体	リモコン	
熱交換モード			本製品の基本モードです。給気モードと排気モードを約60〜70秒で切り替えて、屋外の新鮮な空気に屋内の排出する空気の熱を伝えます。換気による熱ロスを少なくします。
給気モード			屋外の新鮮な空気を屋内に取り入れます。
排気モード			屋内の汚れた空気を屋外に排出します。
自然給排気モード	設定不可		ファンを停止します。ファンは停止しますが、機器内部のシャッターは開いた状態で、自然給排気をおこないます。
除湿運転モード	設定不可	LOW MEDIUM HIGH	設定した湿度を上回った場合、自動的に風量を強に切り替え、除湿をおこないます。除湿量は3段階から選べます。内容については、次ページを参照してください。
夜間運転モード	設定不可		お部屋が暗くなると風量「弱」で運転します。夜間の過剰換気を防ぎ、換気による熱ロスを少なくします。

■除湿量について

除湿運転モードでは、除湿量を３ 段階で選ぶことができます。

除湿量	アイコン		機器の動作
	本体	リモコン	
低除湿	設定不可	LOW	相対湿度が約45%を上回った場合に、風量「強」で運転します。45%を下回ると自動的に元の風量に戻ります。
中除湿	設定不可	MEDIUM	相対湿度が約55%を上回った場合に、風量「強」で運転します。55%を下回ると自動的に元の風量に戻ります。
高除湿	設定不可	HIGH	相対湿度が約65%を上回った場合に、風量「強」で運転します。65%を下回ると自動的に元の風量に戻ります。

MEMO

●除湿運転の相対湿度は、機器本体のセンサーで感知している相対湿度です。この相対湿度が、そのまお部屋の相対湿度に反映されるわけではありません。

●本製品を２台以上つないでお使いの場合、親機の設定が反映されます。子機ごとに設定することはできません。

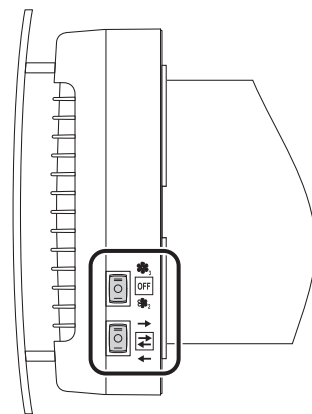
・機器本体のスイッチで設定する場合は、親機のスイッチを操作してください。

・リモコンで設定する場合は、リモコンを親機に向けて設定します。子機に向けても設定を変更できません。

4-2. 機器本体のスイッチで操作する

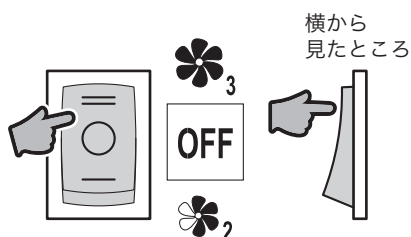
機器本体の右側面にあるスイッチを切り替えることで、風量と運転モードを設定できます。機器本体のスイッチで設定できるのは、風量・運転モードとも３種類です。他の設定を選びたい場合は、付属のリモコンから設定します。

MEMO

●機器本体のスイッチでの操作は親機でおこないます。子機での個別操作はできません。
●「お手入れ」以外のときは通常、「停止」は選択しないでください。
●リモコンを使う場合は、機器本体のスイッチは停止状態にしてください。

4-2-1. 風量の設定をする

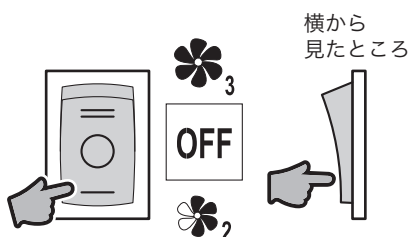
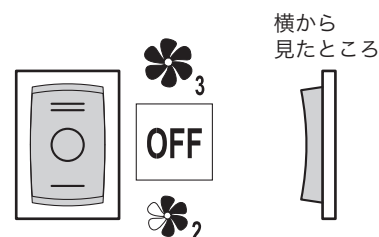
機器本体の右側にあるスイッチを切り替えることで、風量を強・中・停止から選択できます。風量の詳細については、P6の一覧表を参照してください。

●「強」に設定する
II側を押します。
※停止中の場合、運転を開始します。

横から見たところ

●「中」に設定する
I側を押します。
※停止中の場合、運転を開始します。

横から見たところ

●停止する
I側またはII側を押して、スイッチを中間の位置にします。

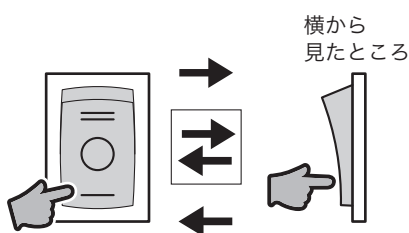
横から見たところ

4-2-2. 運転モードの設定

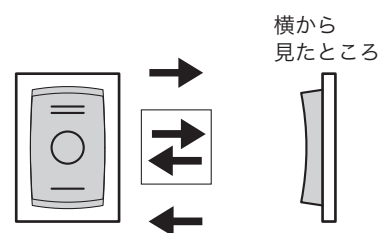
機器本体の右側にあるスイッチを切り替えることで、運転モードを設定することができます。運転モードの詳細については、P6の一覧表を参照してください。

●「排気モード」に設定する
II側を押します。

横から見たところ

●「給気モード」に設定する
I側を押します。

横から見たところ

●「熱交換モード」に設定する
I側またはII側を押して、スイッチを中間の位置にします。

横から見たところ

4-3. リモコンのスイッチで操作する

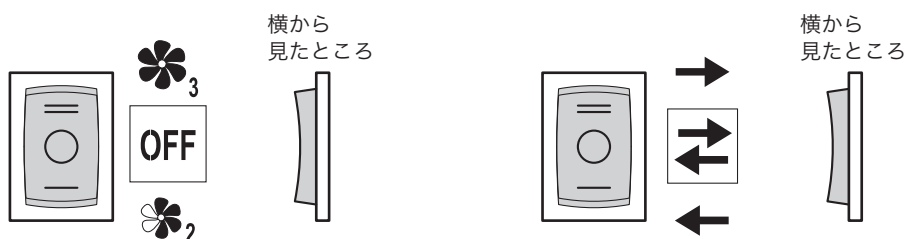
付属のリモコンを使って、運転モードと風量を設定します。リモコンは親機に向けて操作してください。子機は、リモコンの設定を受け付けません。

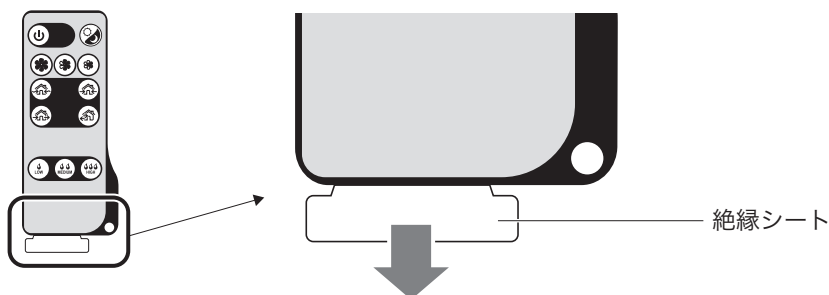
4-3-1. リモコンで操作する前に

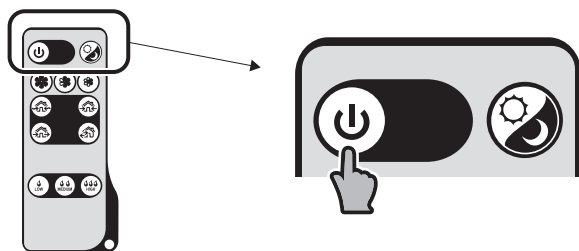
リモコンで操作するには、機器本体にあるスイッチを指定の状態にしてから、リモコンで換気を開始します。この手順は、リモコンを初めて操作する場合に必要です。2回目以降は必要ありません。

1 機器本体の風量切替スイッチを「停止」状態に、運転モードスイッチを「熱交換モード」状態にしておきます。

3
OFF
2
横から見たところ

横から見たところ

2 初めてリモコンを使用するときは、電池の絶縁シートを引き出します。

絶縁シート

- 設置業者がテストのためにすでに外している場合があります。

3 換気オン/オフボタンを押して、換気を開始します。

4-3-2. リモコンで風量と運転モードを設定する

リモコンを使って風量と運転モードを設定します。各運転モードの詳しい内容は、P6「運転モード一覧」を参照してください。

1 換気がオンになっていることを確かめます。

2 風量切替ボタンで、設定する風量を選択します。

強(50m³/h)　中(31m³/h)　弱(21m³/h)

3 運転モードボタンで、使用する運転モードを選択します。

自然給排気モード　給気モード
排気モード　熱交換モード

4 これで設定は完了です。必要に応じて、風量や運転モードを切り替えてください。

4-3-3. その他の設定

リモコンを使うことで、「夜間運転モード」と、「除湿運転」を選択することができます。

機能	アイコン	内　容
夜間運転モード		お部屋が暗くなると風量「弱」で運転します。夜間の過剰換気を防ぎ、換気による熱ロスを少なくします。
除湿運転	LOW MEDIUM HIGH	設定した湿度を上回った場合、自動的に風量を強に切り替え、除湿をおこないます。除湿量は3段階から選べます。詳しい内容は、P7「除湿量について」を参照してください。 LOW 低除湿　MEDIUM 中除湿　HIGH 高除湿

MEMO

除湿運転の相対湿度は、機器本体のセンサーで感知している相対湿度です。この相対湿度が、そのままお部屋の相対湿度に反映されるわけではありません。

5. 日常の点検とお手入れ

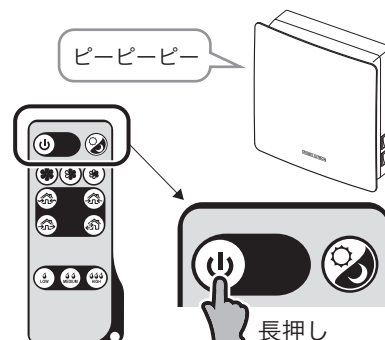
5-1. お手入れの目安と消耗品の入手方法

本製品は定期的にフィルターの清掃などのお手入れが必要です。約３か月に１度、フィルターのお手入れを知らせる音が鳴ります。以下の表を目安に清掃や消耗品の交換をしてください。

MEMO お知らせ音の停止方法

リモコンの換気オン/オフボタン（→P5）を長押しして（約10秒間）、「ピー」というブザー音が３回鳴ったあと、お知らせ音が止まります。機器本体が停止状態になっている場合は、再度換気オン/オフボタンを押して運転を再開します。

ピーピーピー

長押し

■お手入れの目安

清掃/交換項目	お手入れの目安
フィルター清掃	３か月
フィルター交換	３年
全熱交換素子の清掃	１年
外気フードの清掃	２年

ご注意

ベンジン、シンナー、クレンザー、ナイロンたわしなどの使用は、機器や部品などを傷めますので絶対におやめください。

■交換用フィルターのネット購入について

本製品の交換用フィルターは、弊社のWebショップ「STIEBEL EC SHOP」でも入手することができます。

http://nihonstiebel-ec.shop-pro.jp/

商品名

ダクトレス
第一種熱交換換気システム
LT-50用交換用フィルター

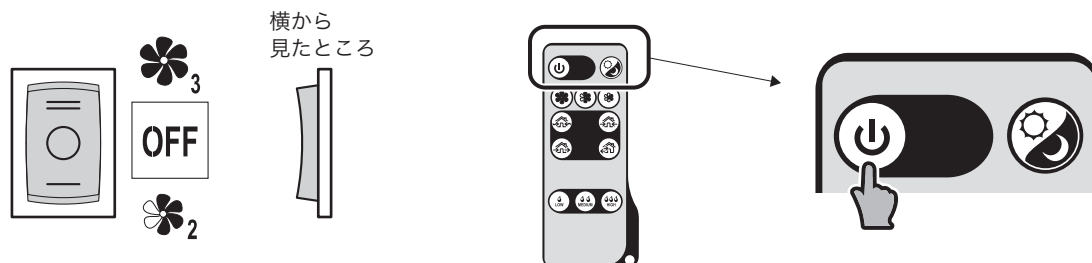
STIEBEL ELTRON
ホーム | 浄水器 | 換気フィルター | 近赤外線ヒーター | お問い合わせ
換気フィルター
[おすすめ順 - 価格順 - 新着順] 全 [7] 商品中 [1-6] 件目
標準仕様フィルター LWZ-70用
標準仕様フィルター LWZ-170 / 170Plus用 / LWZ-270 / 270Plus用
ハイクォリティー仕様フィルター LWZ-70用
ハイクォリティー仕様フィルター LWZ-170 / 270用
ハイクォリティー仕様フィルター LWZ-170Plus / LWZ-270Plus用
標準仕様フィルター LA-60A/U用
次のページへ >>
特定商取引法に基づく表記 | 支払い方法について | 配送、送料について | プライバシーポリシー
2012-2014 Nihonstiebel Co.,Ltd.

5-2. お手入れを始める前に［重要］

お手入れを始める前に、必ず換気運転を停止し、本製品に電源を供給している専用ブレーカを「切(OFF)」側にします。

1 機器本体の右側にあるスイッチ、またはリモコンで換気運転を停止します。

横から
見たところ

OFF

2 本製品の専用ブレーカを「切(OFF)」側にしてください。

⚠ 警告	安全のために必ず専用ブレーカを「切(OFF)」側にしてください。 「入(ON)」側のままお手入れをおこなうと感電する恐れがあります。

5-3. フィルターと全熱交換素子の取り出しかた

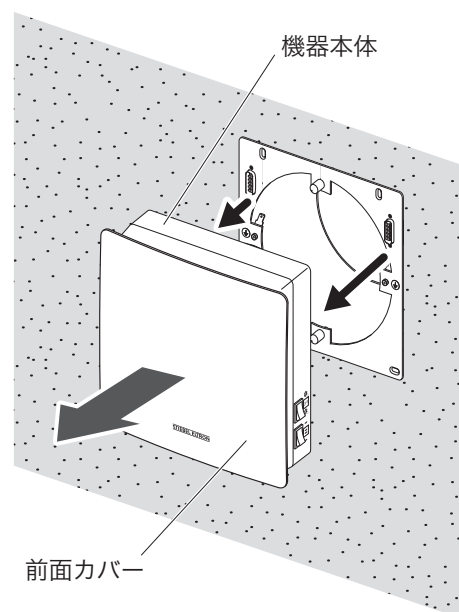
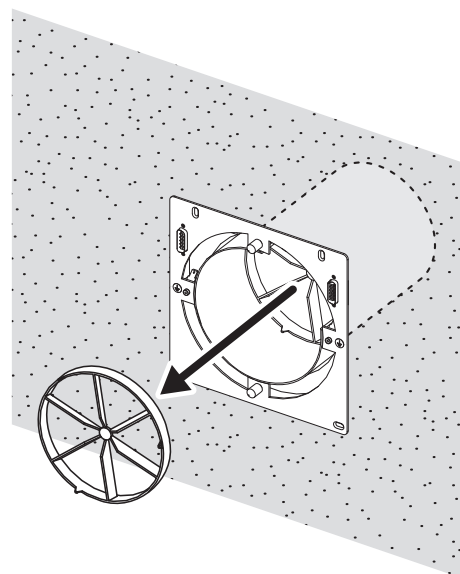
1 機器本体を両手で手前に引き出し、本体設置用プレートから外します。

- 機器本体は重量があります。落下させないようにしっかりと両手で持って外してください。

ご注意

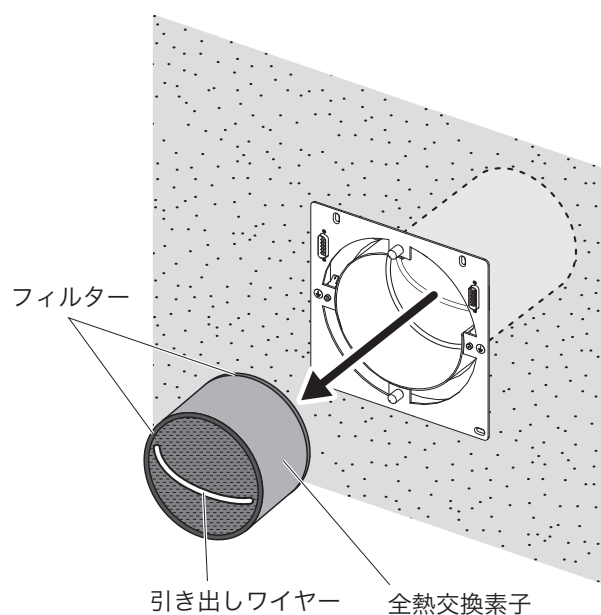
前面カバーを持って機器本体を外さないでください。前面カバーが破損する恐れがあります。

機器本体

前面カバー

2 整流翼の中心部分を持って、パイプ内から手前にゆっくりと引き出します。

3 全熱交換素子の引き出しワイヤーを持って、パイプ内から手前にゆっくりと引き出します。

- 全熱交換素子はフィルターと一体になっています。

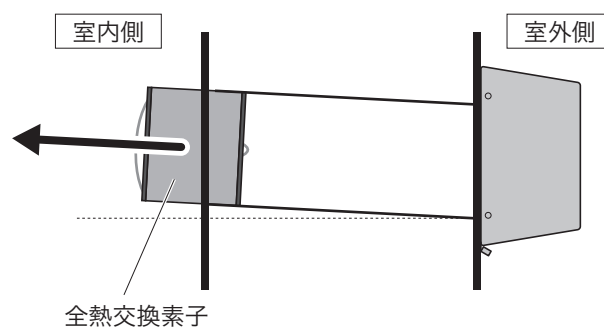
フィルター

引き出しワイヤー

全熱交換素子

ご注意

パイプは外部からの雨などの侵入を防ぐために少し室内側に向かって高くなっている場合があります。引き出しにくい場合は、全熱交換素子は少し上方向に引き出すように取り出してみてください。

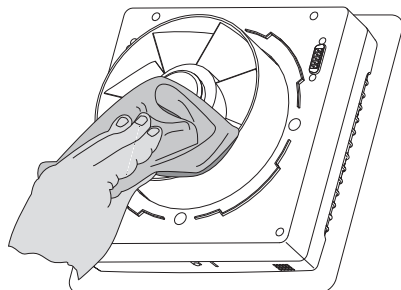
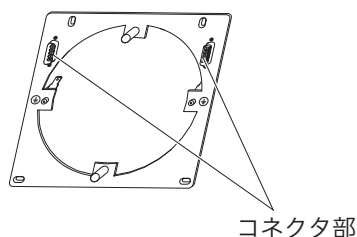
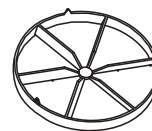
室内側

室外側

全熱交換素子

4 このあとは、お手入れの説明に進みます。

5-4. 各部の清掃とフィルター交換のしかた

1 機器本体、本体設置用プレート、整流翼の汚れをきれいな布ややわらかいブラシできれいに拭き取ります。

◆機器本体　◆本体設置用プレート　◆整流翼

コネクタ部

ご注意

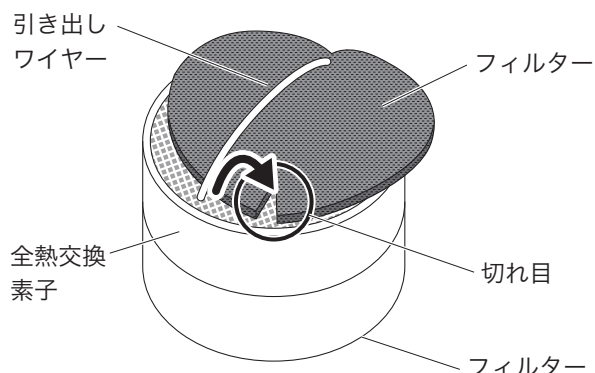
本体設置用プレートのコネクタ部には、触れないようにしてください。

2 全熱交換素子に密着した状態のフィルター(2枚)を外します。

- 引き出しワイヤーは、フィルターの切れ目に挿し込まれています。その部分から外し、ワイヤーの下を通して取り出します。
- フィルターは両側に計2枚あります。

引き出しワイヤー
フィルター
全熱交換素子
切れ目
フィルター

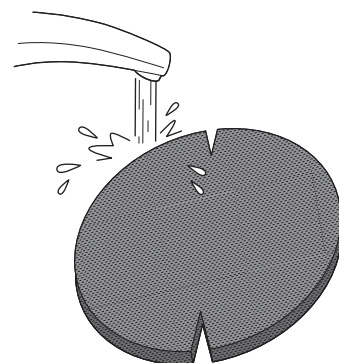
MEMO

オプション品である「LT-50用F7フィルター(高性能フィルター)」をご使用の場合は、本製品に添付の別紙またはフィルターに付属の説明書をお読みください。

3 掃除機でフィルターに付着しているゴミやホコリを取り除きます。

- 汚れがひどい場合は、水道水で水洗いをします。
- 水洗い後は、乾いた布等で十分に水気を取り、乾燥させます。

3年に1度、フィルターは新しいものに交換してください。

ご注意

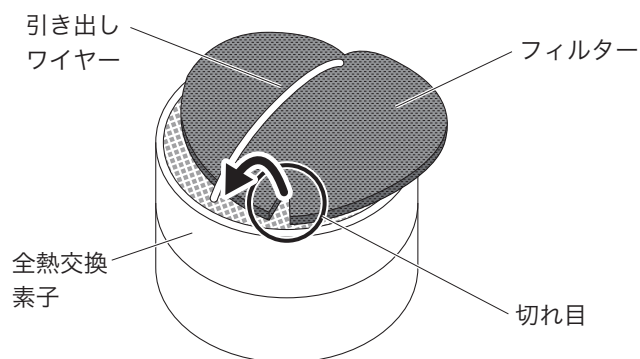
フィルターが濡れている状態で、全熱交換素子に重ねたり、パイプ内に戻したりしないでください。

4 1年に1回、掃除機で全熱交換素子に付着しているゴミやホコリを取り除きます。

5-5. フィルターと全熱交換素子の組み込みかた

フィルターをセットした全熱交換素子をパイプ内に押し込み、機器本体を元に戻します。

1 全熱交換素子にフィルター(2枚)を戻します。

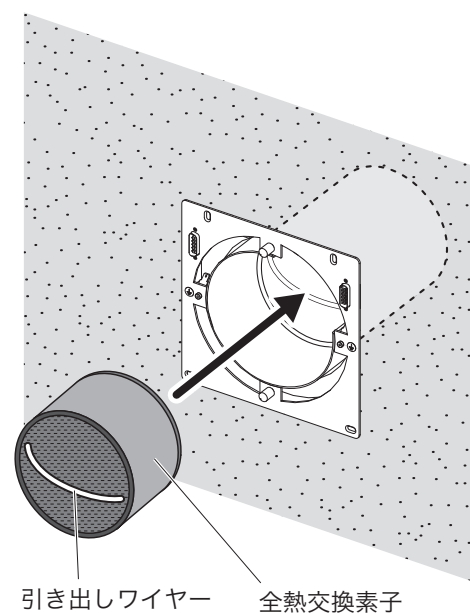
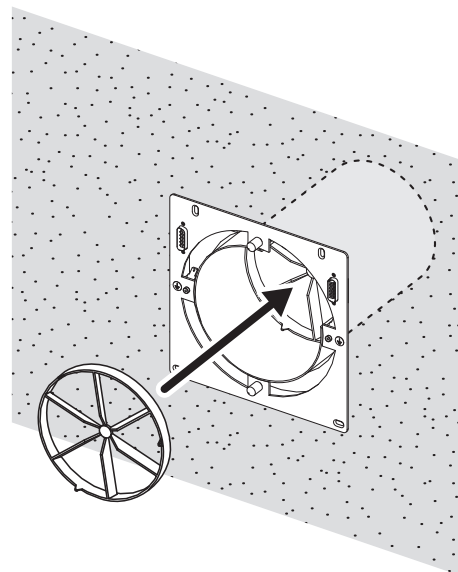
- フィルターの切れ目に引き出しワイヤーをはさみます。

引き出しワイヤー
フィルター
全熱交換素子
切れ目

2 全熱交換素子の引き出しワイヤーを片手で持ち、もう一方の手で全熱交換素子を支えながら、ゆっくりとパイプの中へ押し込みます。

- 突き当たるところまで押し込みます。

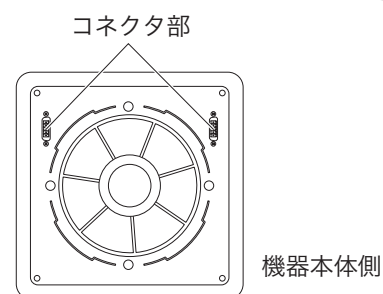
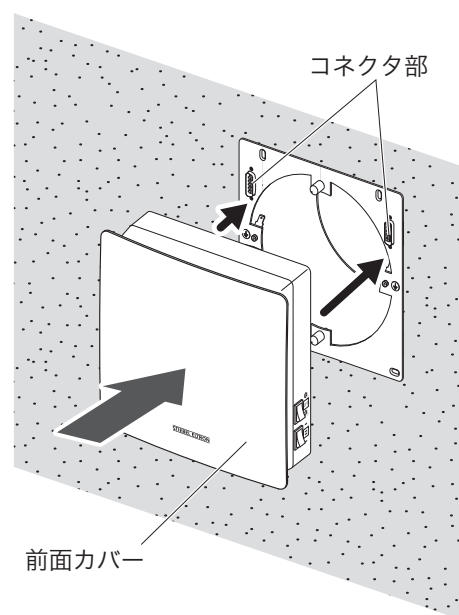
ご注意

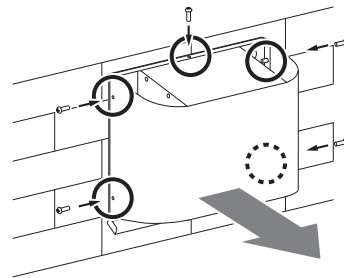
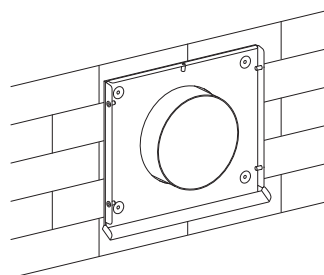
しっかり奥まで押し込まないと、全熱交換素子が内部のファンと干渉し、異音などの原因となります。

引き出しワイヤー
全熱交換素子

3 整流翼の中心に突起がある側を、全熱交換素子側に向けてパイプ内に入れます。

4 機器本体を両手で持って、本体設置用プレートにセットします。

- 機器本体側のコネクタ部を本体設置用プレート側のコネクタ部に、きっちりと接続します。
- 機器本体は重量があります。落下させないようにしっかりと両手で持って取り付けてください。

ご注意

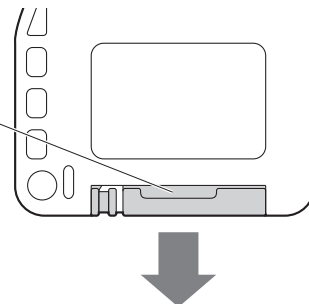
必ず機器本体を持ってください。前面カバーを持つと、破損する恐れがあります。

5-6. 外気フードのお手入れ

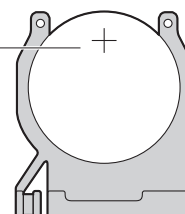
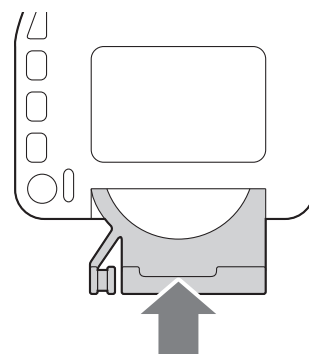
1 上部１か所、側面各２か所の計５本のネジを外し、外気フード本体を手前に引き出します。

2 外気フード本体と取付ベースのホコリや汚れを、布やブラシを使って取り除きます。

3 掃除が終われば、外気フード本体を取付ベースにセットし、**1**のネジ５本で固定します。

5-7. リモコンの電池交換

付属のリモコンは、「CR2025」のボタン電池を１個使用しています。

1 リモコンの裏面にある電池ホルダーを手前へ引き出します。

溝がありますので、
コインなどを入れて
電池ホルダーを開けます。

2 古い電池を取り出し、新しい電池の「＋」側が上になるようにしてセットします。

＋側が上になるように
セットします。

3 電池ホルダーを元に戻します。

6. 故障かな？と思ったら

現象	確かめること	処置の方法	参照ページ
ファンが回らない。	専用ブレーカを確認します。	専用ブレーカを「入(ON)」にします。	—
	リモコンで操作をします。	親機(→P3参照)に向けて換気オン/オフボタンを押します。 回らない場合→機器本体のスイッチを操作して回った場合は、リモコンの電池を交換します。	P8 P18
	機器本体のスイッチで操作します。	機器本体の右側面にある風量切替スイッチを「OFF」以外にします。	P8
	ファンの周囲を確認します。	異物が挟まっている場合は取り除きます。	P12「5-3.」
異音がする。	外気フードの固定状態を確認します。	外気フード本体をしっかり5本のネジで固定します。	P17
	ファンの周囲を確認します。	異物が挟まっている場合は取り除きます。	P12「5-3.」
	パイプ内を確認します。	パイプ内に異物がある場合は、取り除きます。	P12「5-3.」
風量が少ない。	リモコンを操作します。	親機(→P3参照)に向かって風量切替ボタンの「強」のボタンを押します。	P9
	リモコンを使用していない場合	親機(→P3参照)の機器本体の右側面にある風量切替スイッチを「強」にします。	P8
信号音が鳴る。		リモコンの換気オン/オフボタン(→P5参照)を長押しして(約10秒間)、「ピー」というブザー音が3回鳴ったあと、信号音が止まります。	P11
親機と子機で給排気動作が異なる。	運転モードを確認してください。	「熱交換モード(→P3参照)」では正常動作です。機器を「給気モード」または「排気モード」に設定すると同一の動作になります。	P8
除湿運転にならない。	運転モードを確認してください。	「熱交換モード」にします。	P10「4-3-3.」
除湿運転で風量が大きくならない。		一定の湿度にならないと、「強」運転になりません。	P10「4-3-3.」
「夜間運転モード」で風量が小さくならない。	お部屋が暗い状態か確認してください。	お部屋の明るさを検知して、お部屋が暗い状態が5分以上続くと、風量「弱」で運転を開始します。ただし、すでに「弱」で運転いる場合は、風量に変化はありません。	—
リモコンの操作ができない。		リモコンの電池を交換します。	P18
	複数台ある場合、親機と子機を確認してください。	子機を接続して複数台制御している場合は、リモコンを親機に向けて操作します。	P3

上記以外の現象、または上記で問題が解決しない場合は、次ページ「7.点検および修理について」をご参照のうえ、日本スティーベル株式会社のお客さまセンターまでご連絡ください。

7. 点検および修理について

(1) アフターサービス(点検・修理)を依頼される場合

アフターサービスを依頼される前に、この取扱説明書P19「6.故障かな？と思ったら」をよくお読みのうえ、それでも不具合がある場合、あるいは不明な点がある場合は、ご自分で修理をなさらないで、日本スティーベルにご連絡ください。

日本スティーベル

044-540-3200

平日9:00～17:30（土日祝日および弊社特定休業日を除く）

アフターサービスを依頼される場合は、次のことをお知らせください。

①型名　　　　：銘板ラベルに記載
②製造番号　　：銘板ラベルに記載
③不具合の内容：ファンが動作しないなど
④お取付年月日：保証書をご覧ください
⑤お名前、ご住所、電話番号

(2) 補修用部品の最低保有期間について

補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。補修用部品とは、その機器の機能を維持するための部品です。

(3) 保証について

機器は、お取付日から1年保証です。
保証書は、販売店または施工店からお渡しいたしますので、必ず「販売店」または「施工店」名、「お取付日」などの記入をお確かめになり、保証書の内容をよくお読みのうえ保管してください。
修理を依頼される場合、日本スティーベルにご連絡ください。保証期間内であれば、保証書の記載内容に基づき無料修理を行います。保証期間を過ぎても、修理により製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料修理いたします。

ご注意

お客さまご自身で分解、改造した場合は、一切保証できかねますので、予めご了承ください。

8. 仕様

項目				
型式名称		LT–50		
定格電圧		100V　50／60Hz		
機器本体寸法(mm)		幅240×高さ240×奥行85		
外気フード寸法(mm)		幅310×高さ260×奥行144		
外気フード材質		白色タイプ：SUS430(白色塗装) スチールタイプ：SUS304(塗装なし) ねじ：鉄、電気亜鉛めっき		
パイプ長さ(mm)		120〜430		
設定風量レベル		弱	中	強
風量(m^3/h)		21	31	50
消費電力(W)		3.80	3.96	5.61
比消費電力(W／m^3/h)		0.18	0.13	0.11
騒音(dB(A))※1		13	20	23
本体質量(kg)	機器本体	1.44		
	外気フード	1.78		
ダクト接続口径		φ157		
エンタルピ交換率(%)※2	暖房	86		
	冷房	92		
許容周囲温度(℃)		–20〜50		
オプション品		取付枠セット(A)、取付枠セット(B)、金属製パイプ		

※1：ISO 3740、ISO 3741規格に準拠。　※2：DIN 24163、EN 13141–8規格に準拠

長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

＜機器への表示内容＞
経年劣化により危害の発生が高まる恐れがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた右記の内容を本体に表示しています。

【製造年】　年
【設計上の標準使用期間】10年
設計上の標準使用期間を超えて使用されますと経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

＜設計上の標準使用期間とは＞
運転時間や温湿度など、標準的な使用条件(下表による)に基づく経年劣化に対して、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。
機器の設計上の標準使用期間は、製造年を始期としJIS C9921–2に基づいて下記の想定時間を用いて算出したもので、無償保証期間とは異なります。
○「経年劣化」とは、長期間にわたる使用や放置に伴い生じる劣化をいいます。

■標準使用条件 JIS C9921–2 による

環境条件	電圧	単相100V	定格電圧による
	周波数	50Hzおよび60Hz	
	温度	20℃	JIS　C9603から引用
	湿度	65%	
	設置条件	標準設置	取付説明書による
負荷条件		定格負荷	取扱説明書による
想定時間	1年間の使用時間	24時間換気8760時間／年	

■補足：PQ曲線

PQ曲線(給気)

PQ曲線(排気)

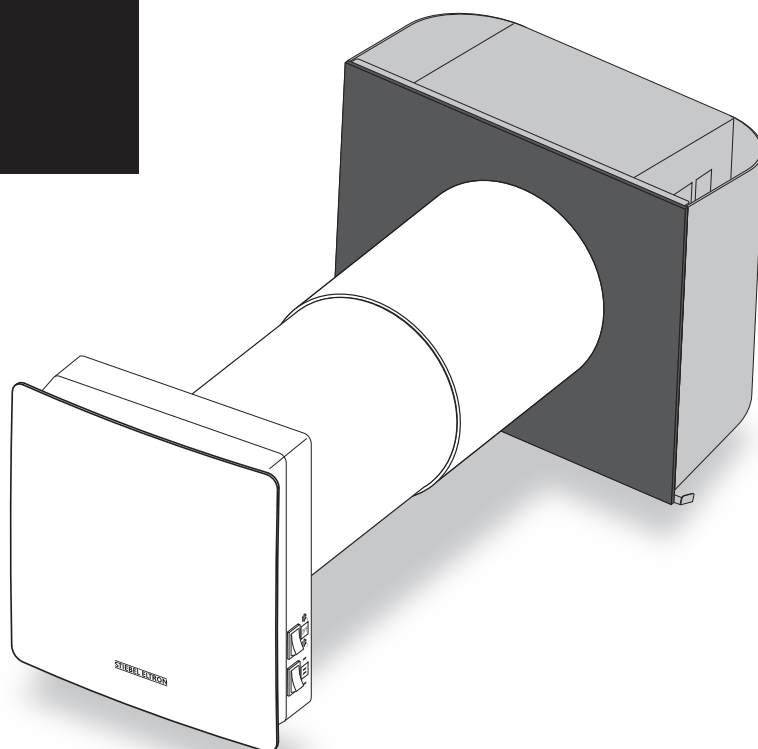
ダクトレス
第一種熱交換換気システム

取付説明書

（保証書付）

STIEBEL ELTRON

型名：LT-50

STIEBEL ELTRON

取付工事店様へ

●この機器は、電気工事が必要となります。取付工事は必ず所定の資格を持った方が行なってください。
●この機器を正しく安全にお客さまにご使用いただくために、取扱説明書ならびに本書の「安全上のご注意」（P24）をよくお読みのうえ、取付説明書の内容に沿って正しく取付けてください。
●施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工上に起因する不都合が生じた場合は、貴店の保証規定により修理していただきますようお願い致します。
●本書の保証書に販売店及び取付日等の必要事項が記載されていることを必ず確認してください。
●工事終了後は、本書を必ずお客さまにお渡しください。
●工事終了後は、必ずお客さまに取扱いの説明を行なってください。直接、お客さまに説明できない場合は、現場責任者に説明のうえ、第三者から必ずお客さまに取扱いの説明を行なうようにしてください。

日本スティーベル株式会社

1. 安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害の程度を次の区分で表示しています。

警告	誤った取扱いをしたときに、死亡、または、重傷に結びつく可能性があるもの。	注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

■本文中に使われている図記号の意味は次のとおりです。

禁止マーク	してはいけないことを示します。
注意マーク	注意することを示します。
指示マーク	必ず行なうことを示します。

警告

禁止

絶対に改造はしないでください。

取外しの指定がない部品は、取り外さないでください。また、指示されている付属部品以外は使用しないでください。

機器本体に100V以外の屋内配線を接続しないでください。

濡れた手で機器を操作しないでください。

機器に水をかけないでください。また、機器が災害等により、濡れてしまった場合は、使用しないでください。

湿気の多い場所や、浴室内には設置しないでください。また、機器に水がかからないようにしてください。

床面や天井面に設置するのは、絶対におやめください。

機器の近くに、ガス類等の可燃性物質や爆発の恐れがある物質を保管したり、使用したりしないでください。

外気フードは、燃焼ガスや住宅の排気を吸い込む位置、積雪等で埋もれる位置には設置しないでください。

注意

電源ケーブル等の配線は最小の長さにして、周囲に遊びをとらないでください。

指示

機器の下表の離隔距離を守って設置してください。

	上面	下面	左面	右面	前面
離隔距離	≧380mm	≧380mm	≧380mm	≧380mm	≧800mm

本体設置用プレートが正しく取付けられ、機器がしっかりと壁面に固定されていることを確かめてください。

電源及び消費電力、定格電流を銘板ラベルで確認し、必ず内線規程に従って配線を正しく行ってください。

必ず専用の漏電ブレーカを１台設置してください。

アースは第三種設置工事（D種接地）を行ってください。

電圧は定格電圧の±10％以内であることを確認してください。

機器の異常を発見した場合は、お客様に引き渡しをせず、お客様センターにご相談ください。

注意

禁止

設置前の機器は、雨水が当たる場所に置かないでください。

機器に荷重を掛けたりしないでください。

指示

換気計算に基づいて選定した数の機器を設置してください。

機器は必ず機器の質量に耐えることができる壁に固定してください。設置場所の選定にあたっては、背面固定のできる場所を選んでください。

パイプセットは、機器から外壁に向かって下り勾配になるようにしてください。

外気フードは、同梱の外気フードをご使用ください。

機器連絡用電線は、Output端子とInput端子間で、端子の差し込み位置を同一にしてください。

機器間の機器連絡用電線の長さは、20m以下になるようにしてください。

機器間の機器連絡用電線は、原則φ1.6mm以上のケーブルを使用してください。ただし、φ0.75mm以上のケーブルを使用することを許容します。

地区計画等で指定がある場合や、防火区画を貫通する場所には、「防火ダンパーセット品」ご使用ください。

気密テープは、経年劣化の少ないテープまたはシール等を使用してください。

取付けの際は、作業用手袋を着用してください。（板金部品で怪我をすることがあります。）

仕上げ材及び下地材に使用する木質材料、固定用の接着剤などにはホルムアルデヒド等のVOCの放散が基準値以下になるものを使用してください。

設定風量は、必ず必要換気量以上の値にしてください。

空気環境基準の設定、必要換気量の算出等の換気設計、機器の設置場所の選定、ダクトの配置設計等は、機器の性能を考慮する必要があります。建築会社または、専門の担当者以外には依頼しないでください。

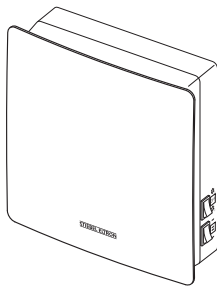
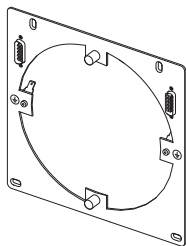
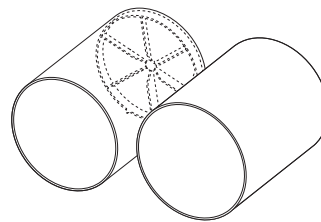
取扱説明書の保証書に販売店、及び、取付日等の必要事項が記載されていることを確認し、必ずお客さまにお渡しください。

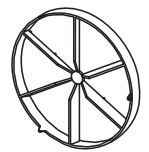
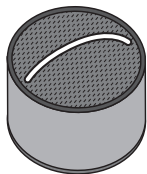
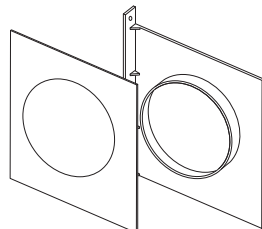
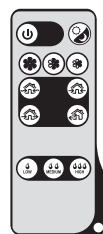
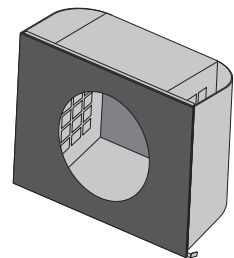
工事終了後は、必ずお客さまに取扱いの説明を行ってください。直接お客さまに説明できない場合は、現場責任者に説明の上、必ずお客さまに取扱いの説明を行うようにしてください。

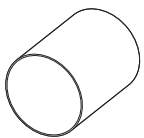
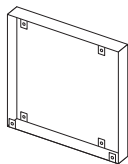
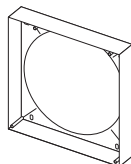
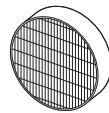
2. 梱包品の内容

梱包の中に以下のものが含まれることを確認します。

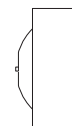
コード	日本スティーベル型番	同梱品
664	LT-50S	標準品セット（外気フード：スティール）
665	LT-50W	標準品セット（外気フード：白色）
666	LT-50SD	標準品セット（外気フード：スティール）＋防火ダンパー
667	LT-50WD	標準品セット（外気フード：白色）＋防火ダンパー

機器本体（前面カバー付き）

本体設置用プレート

パイプセット（室内側・屋外側）

※室内側のパイプの奥には
固定整流翼が装備されています。

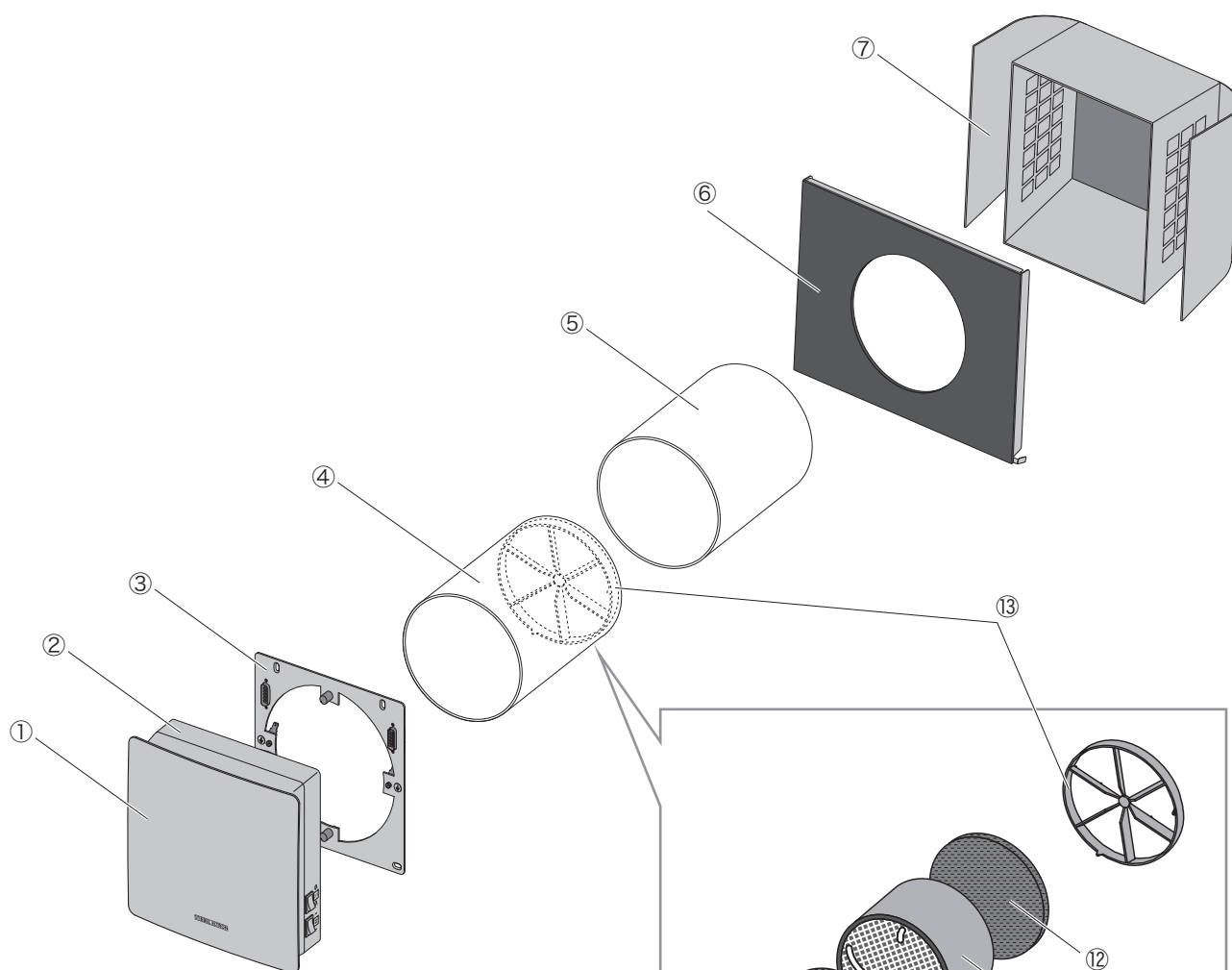
整流翼

全熱交換素子
（前後にフィルター
2枚付き）

気密フランジセット
（気密フランジ・気密ラバー）

リモコン
（テスト用ボタン
電池付き）

外気フード
［スティールまたは白色］
（取付ベース付き）

※白、スティールの2種類を
お選びいただけます。いずれ
も寸法等は同じ仕様です。

オプション品

金属製
パイプ

取付枠セット（A）
（金属製）

取付枠セット（B）
（樹脂製）

LT-50用
F7フィルター
（高性能フィルター）

※2015年内
発売予定

防火ダンパーセット品

防火ダンパー

取扱説明書	1部	お客さまセンターシール	1枚	ECサイトラベル	1枚
カールプラグ	8本	φ2.7×39mm 皿木ネジ	8本	気密フランジテープ（520mm）	1本
パイプ固定ネジ	2本	壁固定用型紙	1枚	電源ケーブル（30cm）	1本
差込コネクタ	2個	圧着棒端子	2個	差込形接続端子	2個

3. 各部のなまえ

①：前面カバー

②：機器本体

③：本体設置用プレート

④：パイプ（室内側：内径が小さい）

⑤：パイプ（屋外側：内径が大きい）

⑥：外気フード取付ベース

⑦：外気フード本体

⑧：整流翼（手前側・着脱可能）

⑨：フィルター（手前側）

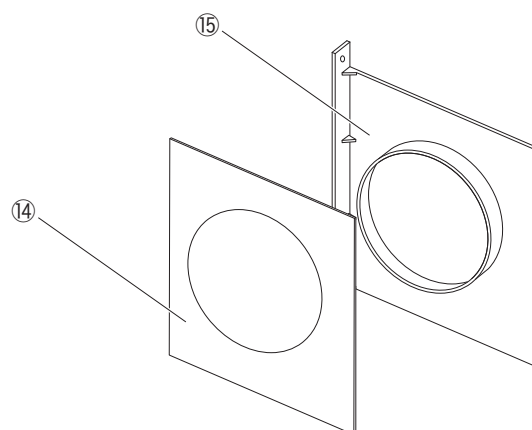
⑩：引き出しワイヤー

⑪：全熱交換素子

⑫：フィルター（奥側）

⑬：固定整流翼（奥側）※
　※パイプ（室内側）の奥に固定されています。

⑭：気密ラバー

⑮：気密フランジ

4. 設計・施工の前に

4-1. 事前の確認事項

●設置場所の壁厚をお調べのうえ、P37〜P39の図面を参考に機器および部材の収まりを確認してください。また、機器を設置する位置周辺に「気密フランジ」を固定できる構造体があること確認してください。

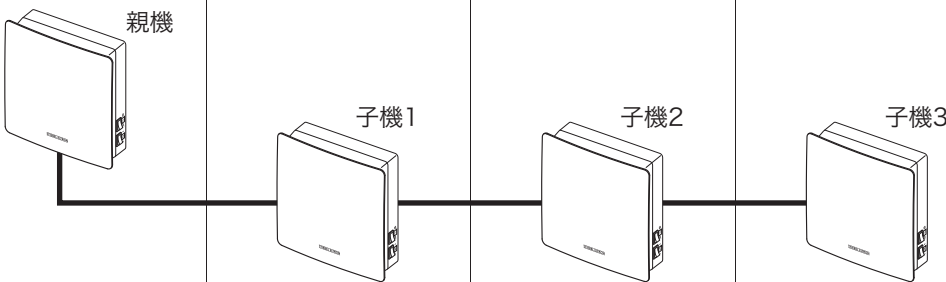
●オプション品の「取付枠セット」、「金属製パイプ」が必要であるかを確認してください。また、防火地域など「防火ダンパー※」が必要な場合は、「防火ダンパーセット品」をご使用ください。

●本製品を使用するには、電源および配線工事が必要です。このあとの説明をお読みになり、あらかじめ配線工事を済ませてください。

●本製品を３台以上連結する場合は、設置時に機器内部のショートピンの変更が必要です。

●外装仕上の下地にメタルラスなどの金属が使用されている場合に、オプションの金属製パイプを使用するときは、互いに導通しないように絶縁処理を施してください。

※防火ダンパーを使用する場合は、金属製パイプとセットで使用されることをお勧めします。

4-2. 本製品を３台以上連結する場合

4-2-1. 親機と子機の動作について

●本製品は通常、２台以上、偶数台で構成します。本製品の特長である「熱交換モード」を使用する場合、半数ずつ「給気モード」と「排気モード」で交互に運転するよう設定します。

●１台目を親機とし、送り配線で接続することで、2台目以降は子機として扱われます。親機の操作スイッチまたはリモコンを操作することで、子機も連動して動作します。

●４台設置した場合は、一部の子機のショートピンの設定を変更することで、２台ずつでペアとなり給気モードと排気モードで交互（約60～70秒ごと）に運転できます。これにより、熱ロスを抑えながら効率のよい換気ができるようになります。

※本製品を４台以上設置して「熱交換モード」で運転する場合、機器内部のショートピンの変更が必要です。

●１台の親機に対して９台まで子機を接続できます。

■ショートピンの変更の有無による動作の違い

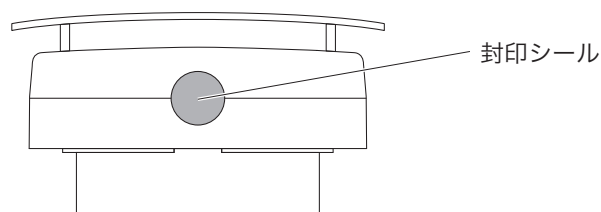
	親機	子機1	子機2	子機3
すべて変更しない場合	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
60～70秒ごとに交互に切り替え	排気	給気	給気	給気
	給気	排気	排気	排気
一部変更した場合	変更しない	変更しない	**変更する**	変更しない
60～70秒ごとに交互に切り替え	排気	給気	排気	給気
	給気	排気	給気	排気

子機のショートピンを変更していない場合、親機のみ子機とは逆の風向で動作します。親機と子機を合わせて1:1の割合で同じ風向になるように、子機のショートピンを変更することで、バランスの良い吸排気が可能になります。ショートピンを変更する子機の位置は、設定条件等に応じて適切な子機をお選びください。

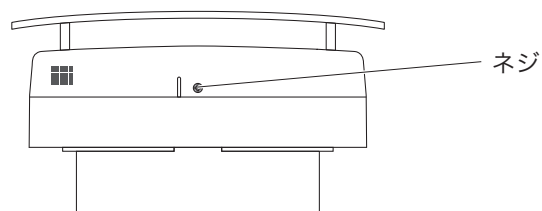
4-2-2. 子機のショートピンを変更する

３台以上の子機を使用する場合は、２台に１台の割合で子機が親機と同じモードで動作をするよう、設置時にショートピンの入れ替え作業が必要になります。

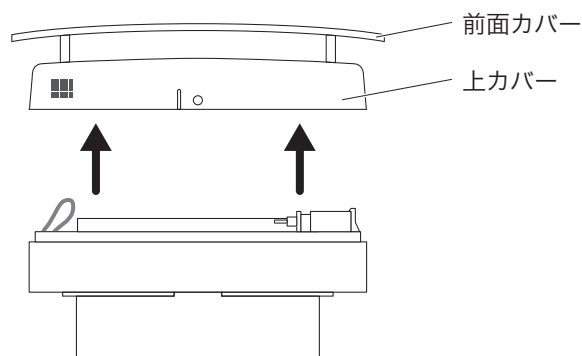
1 機器本体の天面にある透明の封印シール(1か所)をはがします。

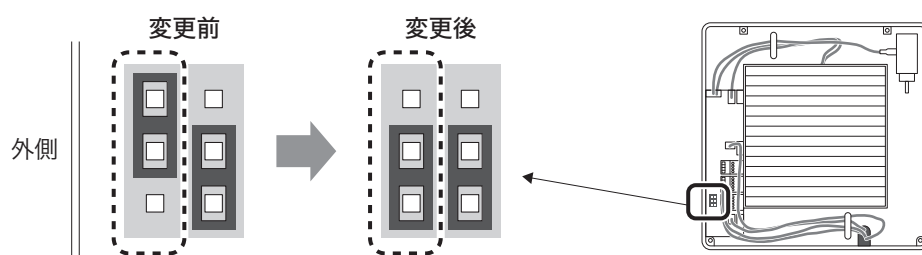
- シールは後で再利用しますので、丁寧に外して保管しておきます。

封印シール

2 機器本体の底面にあるネジ(1か所)を外します。

ネジ

3 機器の上カバーを外します。

- 前面カバーではなく、上カバーを持って外してください。

前面カバー
上カバー

4 ショートピンを図のように変更します。

変更前
変更後
外側

5 上カバーをセットします。2で外したネジを元に戻し、封印シールを貼り直します。

6 これで作業は完了です。ショートピンの差し替えが必要な子機が他にもあれば同様の作業をします。

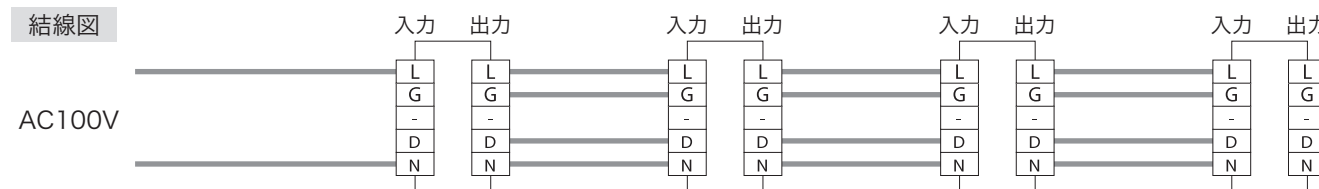
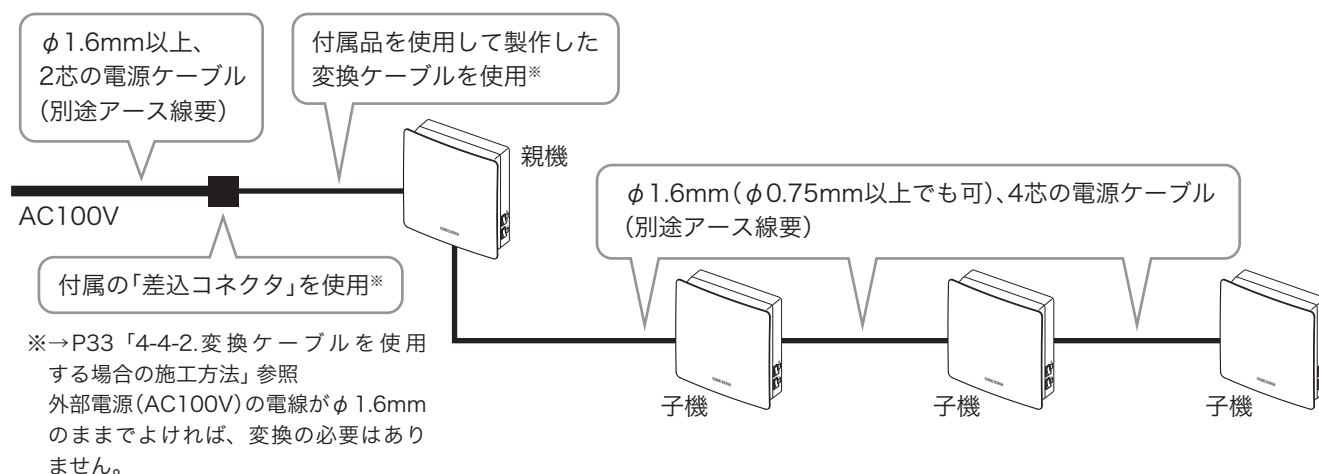
MEMO

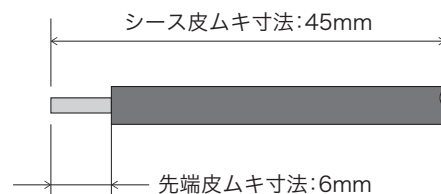
ショートピンが正しく設定されていない場合、電源をオンにしたとき「ピー」というブザー音が鳴る場合があります。電源を切って、作業をやり直してください。

4-3. 配線工事について

本製品を設置する場所には、以下の配線工事が必要です。親機から子機に送り配線で接続することで、親機の操作スイッチまたはリモコンを操作することで、子機も連動して動作します。

●外部電源(AC100V)→親機直近:VVFケーブル、φ1.6mm以上、2芯の電源ケーブル(別途アース線要)
●親機直近→親機：電線がφ1.6mmのままでは、本製品の端子に接続しづらい場合、付属品を使用して外部電源側のφ1.6mmケーブルを変換してから接続することができます。変換方法はP33「4-4-2.変換ケーブルを使用する場合の施工方法」をお読みください。
●親機→子機:VVFケーブル、φ1.6mm(φ0.75mm以上でも可)、4芯の電源ケーブル(別途アース線要)
●子機→子機:VVFケーブル、φ1.6mm(φ0.75mm以上でも可)、4芯の電源ケーブル(別途アース線要)

※→P33「4-4-2.変換ケーブルを使用する場合の施工方法」参照
外部電源(AC100V)の電線がφ1.6mmのままでよければ、変換の必要はありません。

MEMO

●電線の皮ムキについては右図の通りとしてください。
●アース線の接続には、同梱の差込形接続端子を使用してください。

4-4. 配線の事前準備と結線図

ここでは、親機と子機の接続に関して事前に知っておいていただきたいことを説明します。

4-4-1. 事前の配線工事

電線は本体設置用プレートの背面側の端子部に接続します。室内の壁面に本体設置用プレートを取り付ける前に配線工事を完了してください。事前配線の位置については、P45「5-2. 機器本体を取り付ける」の手順❹を参考にしてください。

4-4-2. 変換ケーブルを使用する場合の施工方法

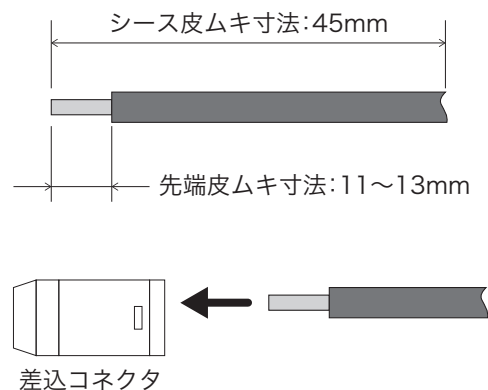
変換ケーブルを使用する場合、外部からの電源用電線に以下の手順で接続してください。

❶ 親機の設置場所に敷設された電源電線を図のように皮ムキし、付属の差込コネクタに差し込みます。

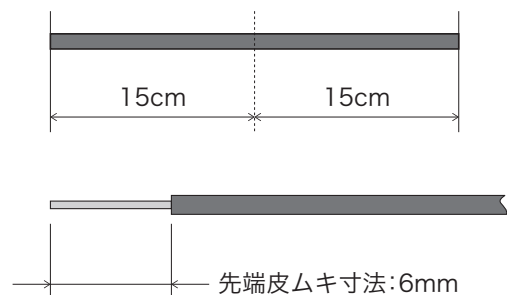
- 「L」側、「N」側、2本とも同じ加工をします。
- 2か所ある差込コネクタのどちらの穴に差し込んでもかまいません。

シース皮ムキ寸法:45mm

先端皮ムキ寸法:11〜13mm

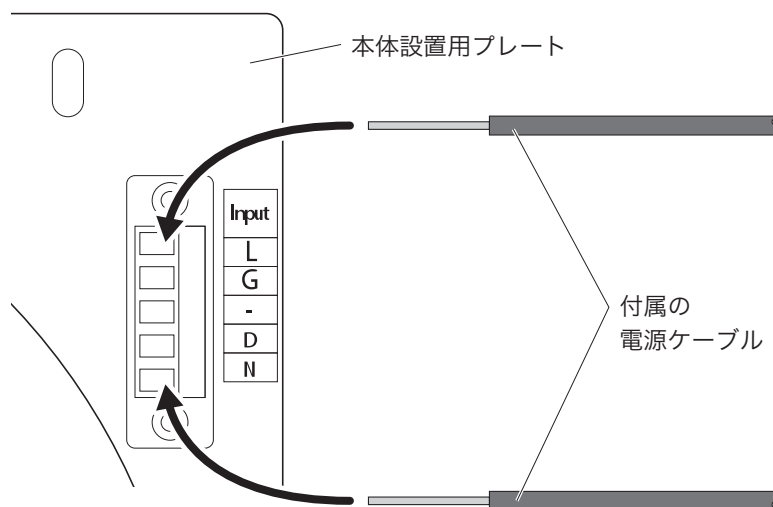
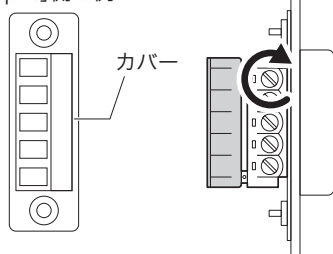
差込コネクタ

❷ 付属の電源ケーブル(30cm)×1本を2本(各15cm)に分け、図のように両端を皮ムキをします。

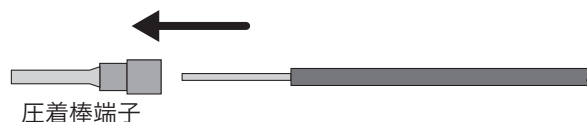
15cm 15cm

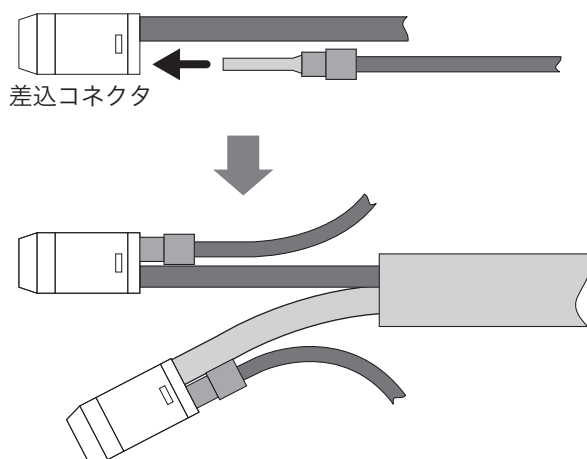
先端皮ムキ寸法:6mm

3 電源ケーブルの一方を本体設置用プレート端子に差し込みます。

- 1本は「L」端子に、もう1本は「N」端子に差し込みます。
- 端子部の側面にあるカバーを開け、マイナスドライバーでネジを回し、奥まで差し込んだケーブルをしっかりと固定します。

ご注意

電源ケーブルが抜けないように、必ずマイナスドライバーを使ってネジでしっかりと端子に固定してください。

4 電源ケーブルのもう一方に付属の圧着棒端子に電源ケーブルを差し込んで、かしめます。

- 2本とも同じようにします。

5 用意した変換ケーブルの圧着棒端子を差込コネクタのもう一方に差し込みます。

- 「L」側、「N」側どちらも同じ処理をします。

4-4-3. 親機の結線方法

ここでは、工事時の実際の親機の結線方法について説明します。宅内の配線工事の参考としてください。親機は、AC100Vの外部電源からは2芯の電源用電線を「Input」に接続し、4芯の機器連絡用電線を「Output」に接続します。

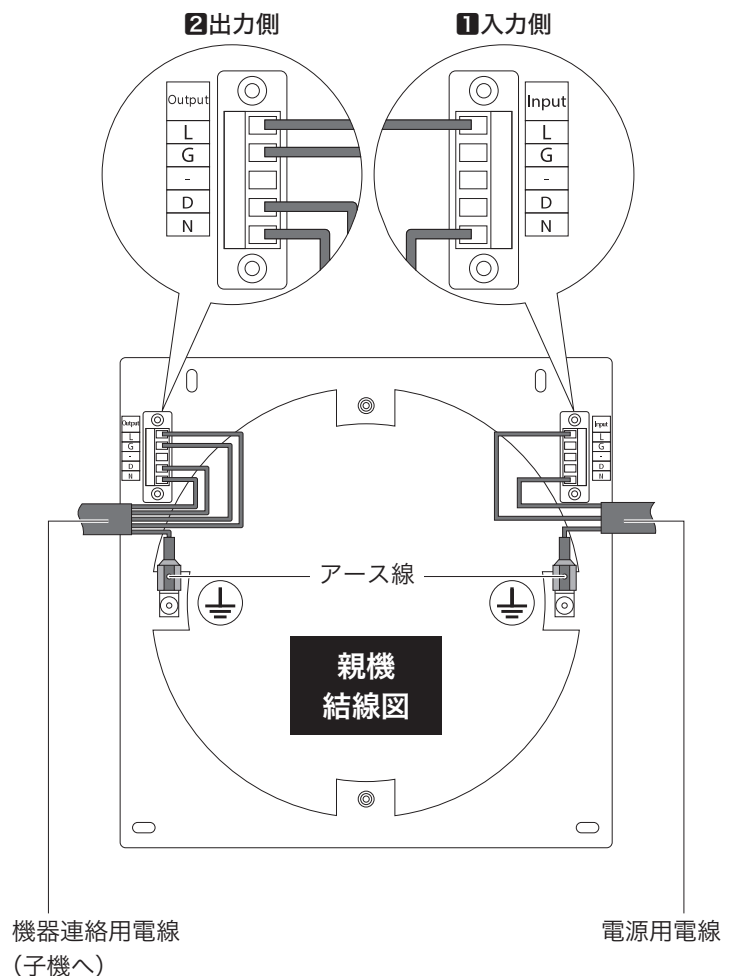
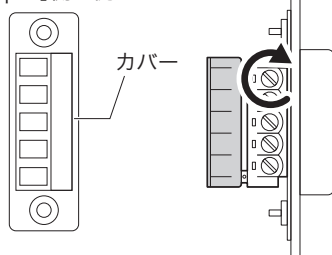
MEMO

付属品を使用して製作した変換ケーブルを使用する場合は、P33「4-4-2.変換ケーブルを使用する場合の施工方法」を参照してください。

1 AC100V、2芯の電源用電線を親機の「Input」側のLとNに接続し、アース線をアース端子に接続します。

- 端子部の側面にあるカバーを開け、マイナスドライバーでネジを回し、奥まで差し込んだケーブルをしっかりと固定します。

ご注意

電源ケーブルが抜けないように、必ずマイナスドライバーを使ってネジでしっかりと端子に固定してください。

2 子機がある場合は、4芯の機器連絡用電線を親機の「Output」側のL・G・D・Nに接続し、アース線をアース端子に接続します。

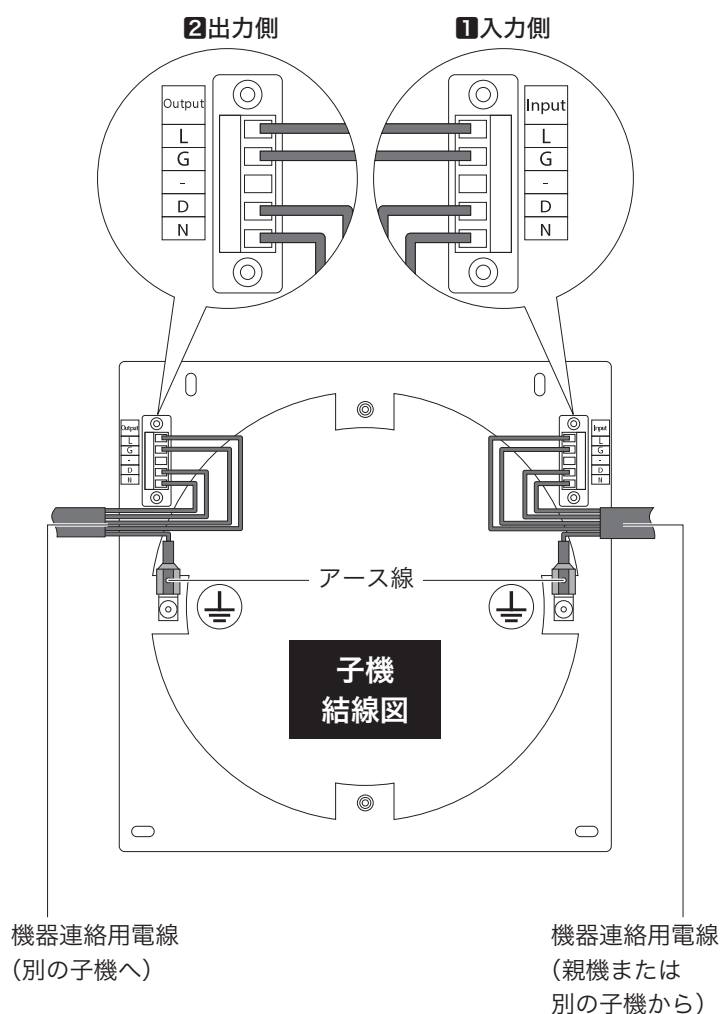
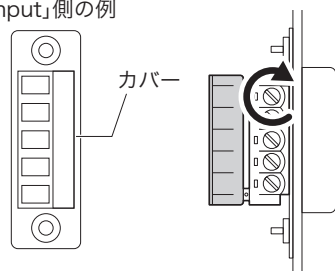
3 子機がある場合は、次ページに進みます。

4-4-4. 子機の結線方法

1 **4芯の機器連絡用電線を子機の「Input」側のL・G・D・Nに接続し、アース線をアース端子に接続します。**

- 端子部の側面にあるカバーを開け、マイナスドライバーでネジを回し、奥まで差し込んだケーブルをしっかりと固定します。

ご注意

電源ケーブルが抜けないように、必ずマイナスドライバーを使ってネジでしっかりと端子に固定してください。

2 **さらに子機がある場合は、4芯の機器連絡用電線を子機の「Output」側のL・G・D・Nに接続し、アース線をアース端子に接続します。**

3 **最後の子機まで同じ作業を繰り返します。**

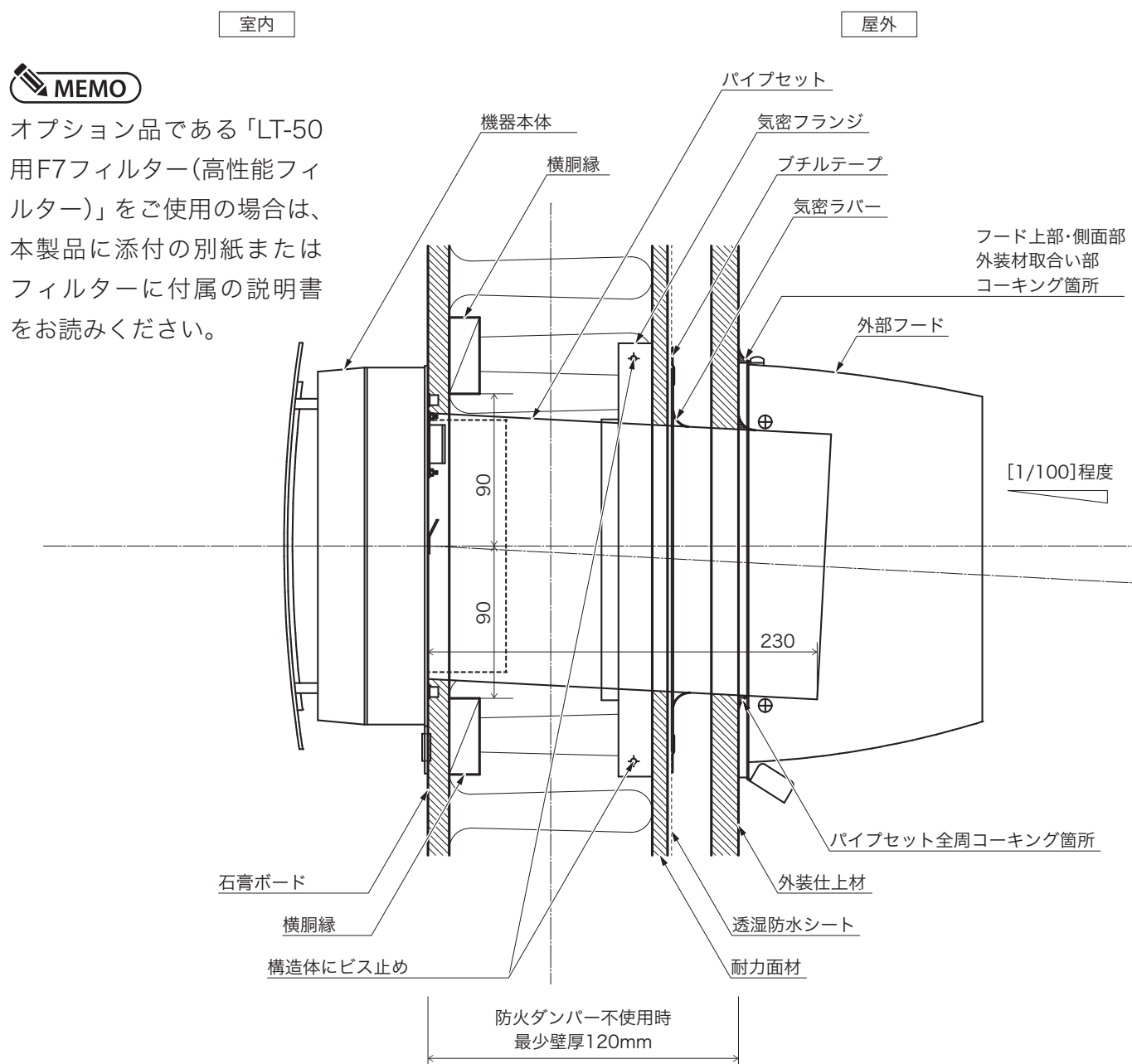
4-5. 設計・施工参考図

現場の状況により、オプション品（取付枠セット、防火ダンパー、金属製パイプ）を使う場合と、使わない場合の参考図です。設計・施工時の参考にしてください。部材の位置関係や屋外側のコーキング場所なども示しています。

MEMO 防火地域の場合

防火指定地域など、貫通部に不燃材料を使用する必要がある場所では、標準付属品の樹脂製パイプ（屋外側）の替わりに、オプション品の金属製パイプを使用することをお勧めします。

4-5-1. オプション品を使用しない場合

オプション品の取付枠セットおよび防火ダンパーを使用しない場合は、下図を参考に設計・施工してください。

MEMO

オプション品である「LT-50用F7フィルター（高性能フィルター）」をご使用の場合は、本製品に添付の別紙またはフィルターに付属の説明書をお読みください。

室内

屋外

パイプセット

機器本体

気密フランジ

横胴縁

ブチルテープ

気密ラバー

フード上部・側面部
外装材取合い部
コーキング箇所

外部フード

90

90

[1/100]程度

230

パイプセット全周コーキング箇所

石膏ボード

外装仕上材

横胴縁

透湿防水シート

構造体にビス止め

耐力面材

防火ダンパー不使用時
最少壁厚120mm

4-5-2. 取付枠セットを使用する場合

オプション品の取付枠セットを使用する場合は、下図を参考に設計・施工してください。

室内

LT-50本体

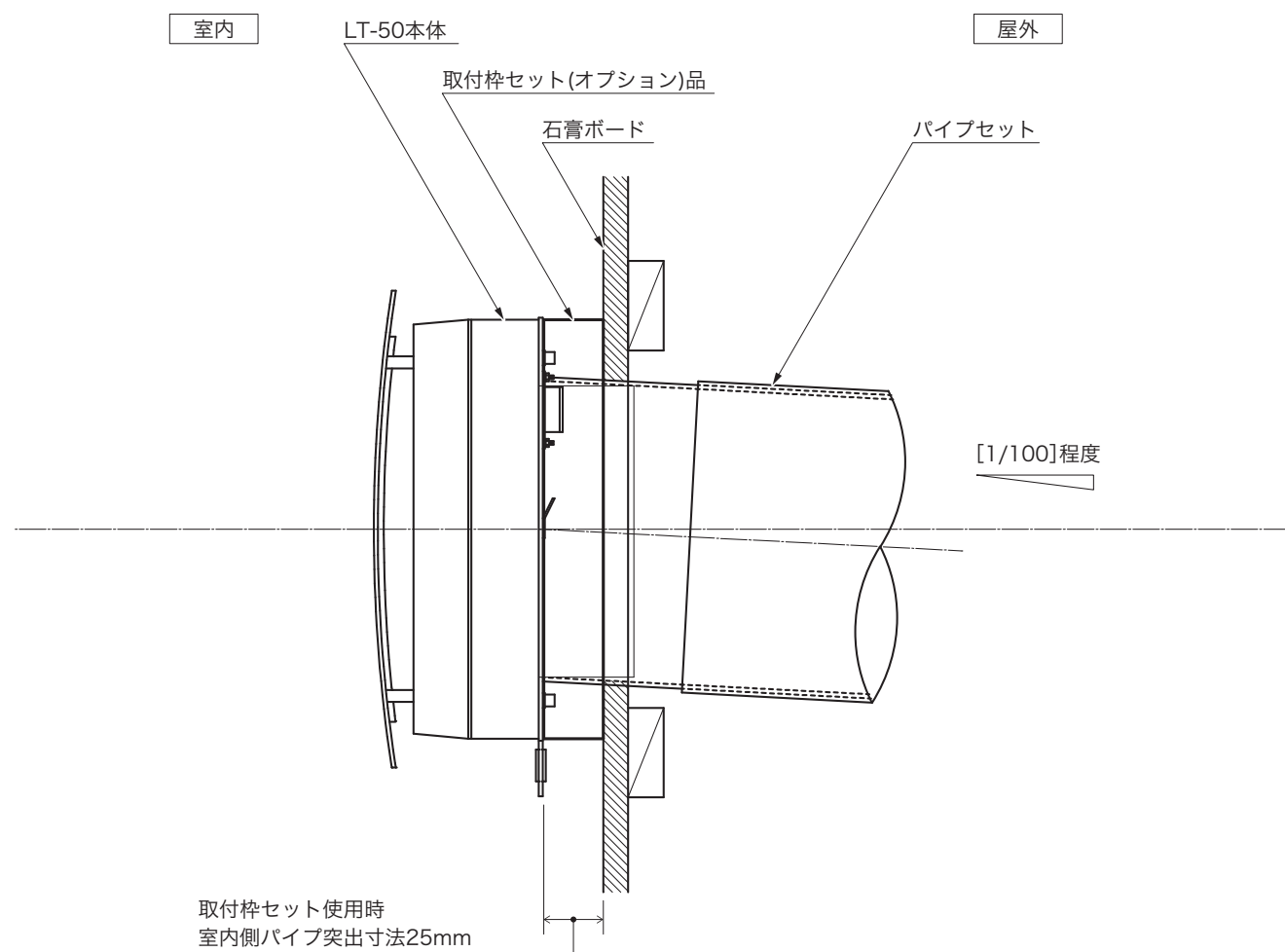
取付枠セット(オプション)品

石膏ボード

屋外

パイプセット

[1/100]程度

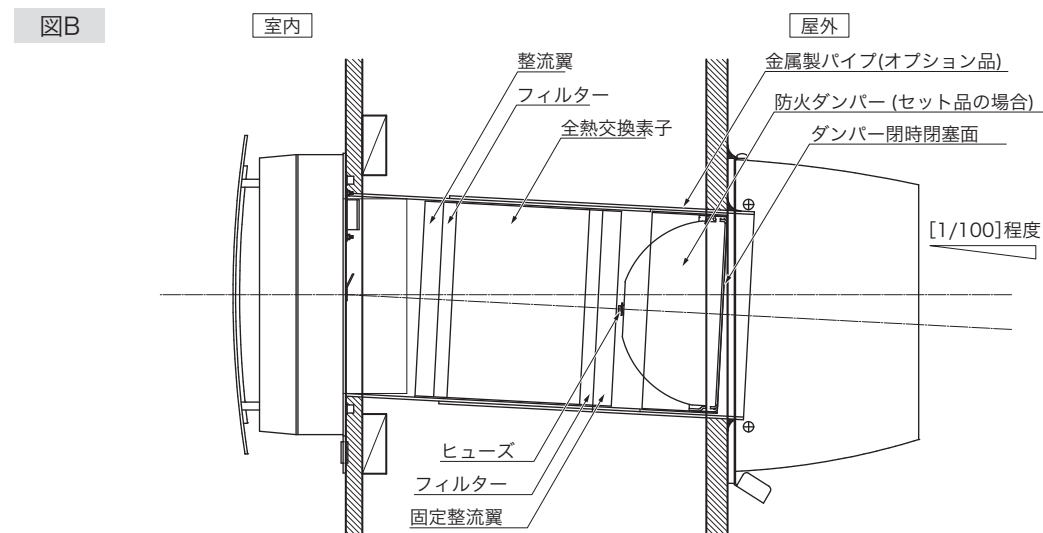
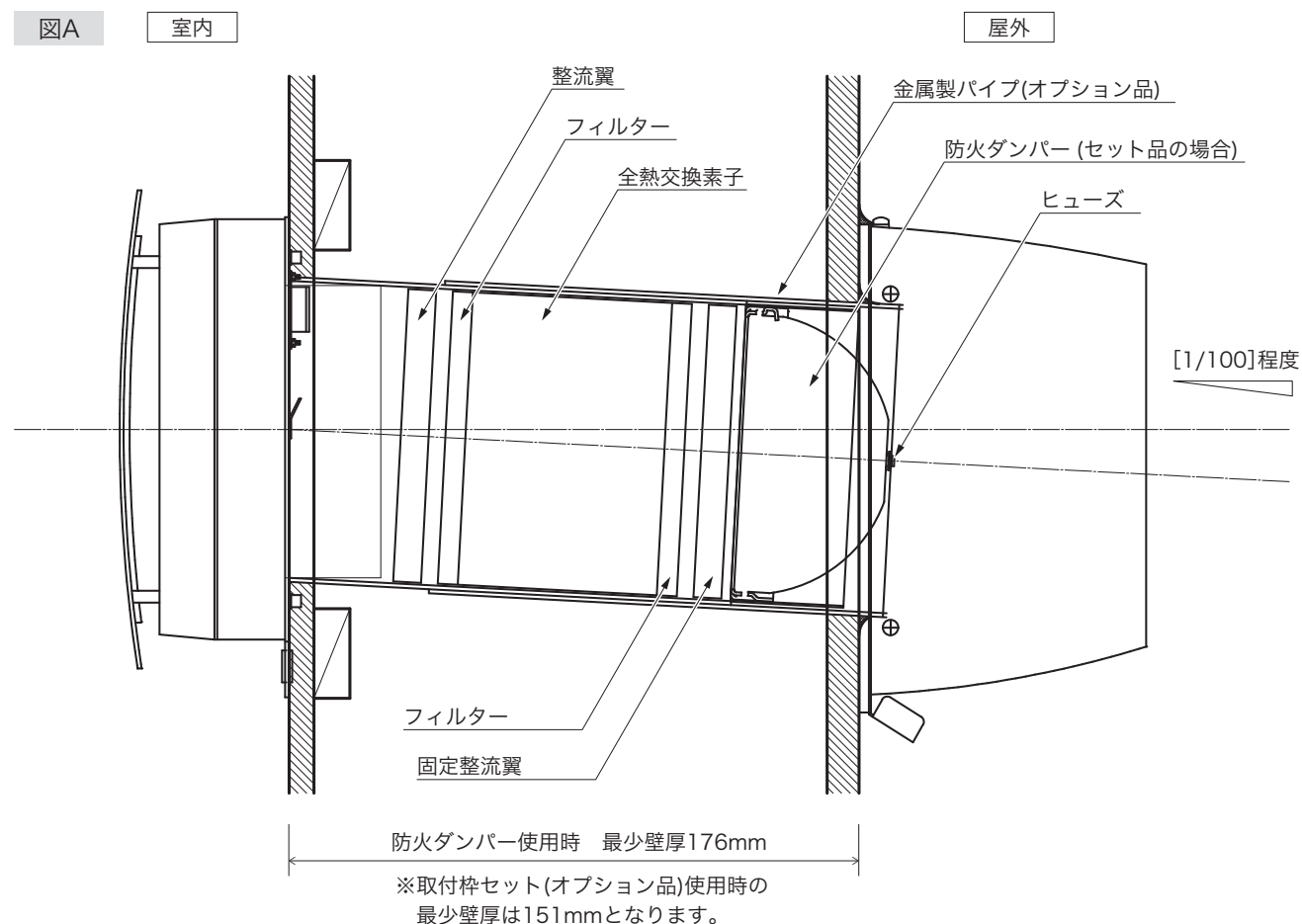
取付枠セット使用時
室内側パイプ突出寸法25mm

4-5-3. 防火ダンパーを使用する場合

オプション品の防火ダンパーを使用する場合は、図Aを参考に設計・施工してください。使用するパイプには、標準付属品の樹脂製パイプの替わりに、オプション品の金属製パイプを使用することをお勧めします。なお、防火ダンパーの点検を室内側からおこなうよう設計・施工する場合は、図Bを参考にしてください。

図A

室内
屋外
整流翼
フィルター
全熱交換素子
金属製パイプ(オプション品)
防火ダンパー (セット品の場合)
ヒューズ
[1/100]程度
フィルター
固定整流翼
防火ダンパー使用時　最少壁厚176mm
※取付枠セット(オプション品)使用時の
最少壁厚は151mmとなります。

図B

室内
屋外
整流翼
フィルター
全熱交換素子
金属製パイプ(オプション品)
防火ダンパー (セット品の場合)
ダンパー閉時閉塞面
[1/100]程度
ヒューズ
フィルター
固定整流翼

5. 設置の手順

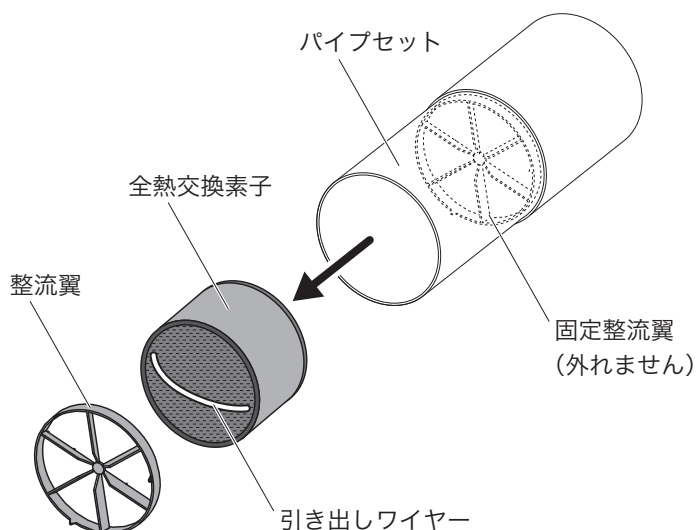
5-1. パイプセットを取り付ける

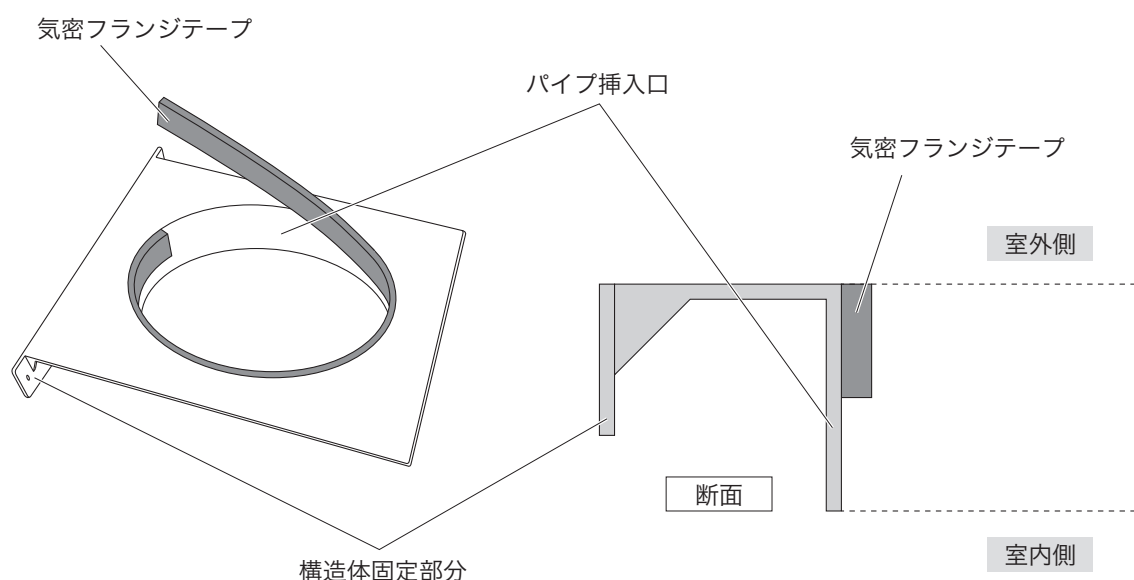
1 梱包のパイプ内にセットされている整流翼と全熱交換素子を取り出しておきます。

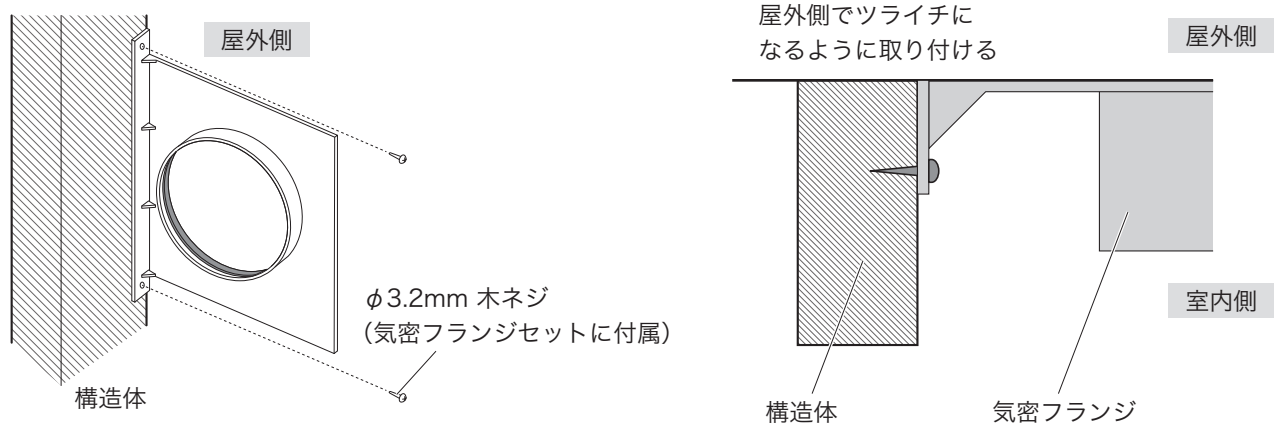
- 全熱交換素子は、引き出しワイヤーを持って手前に引き出します。

MEMO

●パイプ(室内側：内径が小さい)の奥側にある固定整流翼はパイプに固定されていますので外せません。
●パイプセット、気密フランジセット以外の部材は、施工工程によって使用する時期が異なりますので、箱に入れて保管してください。

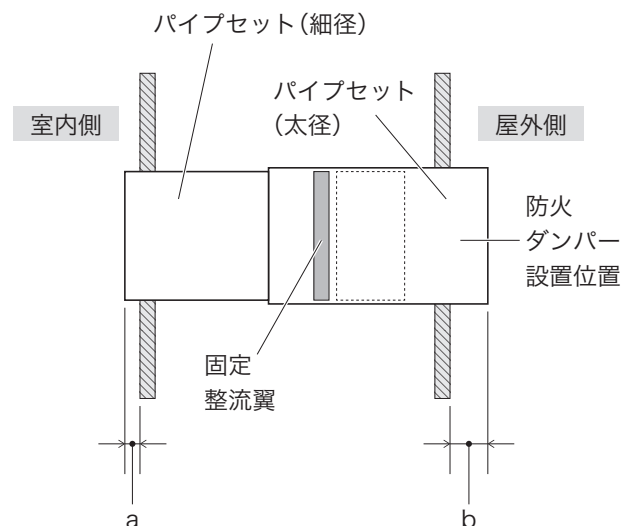
パイプセット
全熱交換素子
整流翼
固定整流翼
(外れません)
引き出しワイヤー

2 気密フランジのパイプ挿入口の内側全周に、付属の気密フランジテープを貼り付けます。

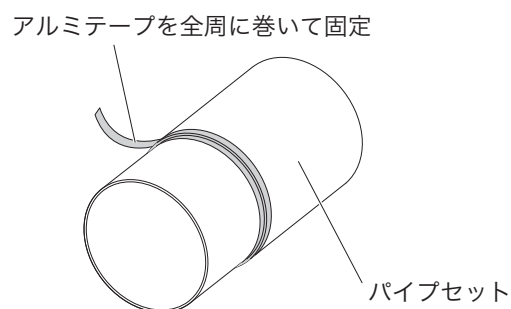
気密フランジテープ
パイプ挿入口
気密フランジテープ
室外側
断面
室内側
構造体固定部分

- 気密フランジテープの白いはくり紙をはがして、貼り付けます。長さは内周ぴったりになっています。
- イラストのように、気密フランジテープは室外側の面にぴったり収まるように貼り付けます。

3 気密フランジを設置場所にある間柱等の構造体にφ3.2mmの木ネジを使って固定します。屋外側で気密フランジと構造体がツライチになるように取り付けます。

MEMO

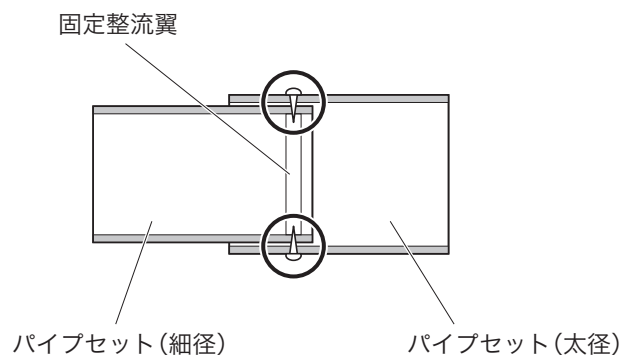
●上記イラストでは気密フランジを構造体の屋外側に取り付けていますが、これは電線の配線ルートの確保と、断熱材の充填を考慮した場合です。これらの影響がない施工現場では、気密フランジを室内側に取り付けても問題ありません。
●付属の気密フランジセットに添付されている取扱説明書の固定方法は、一般的な条件での固定方法であり、本製品において使用する場合は、本取付説明書を優先してください。
●気密フランジは、断熱材の納めに支障が出ないように注意します。
●気密ラバーは、透湿防水シートとパイプの取り合い部分に使用します。
●グラスウール等の充填断熱の場合は、気密フランジの枠面を屋外側（外面）に合わせて設置してください。

4 現場の施工方法に合わせてパイプセットの長さを調整します。オプション品の使用状況に応じて、室内側に「a」、屋外側に「b」の長さだけパイプセットの長さを伸ばします。

取付枠セットの使用	長さ
取付枠セットを使用しない	a=0mm b=10～110mm
取付枠セットを使用する	a=25mm b=10～110mm

5 **パイプセットの長さが決まれば細径と太径のパイプの境目をアルミテープで固定します。全周を固定してください。**

アルミテープを全周に巻いて固定

パイプセット

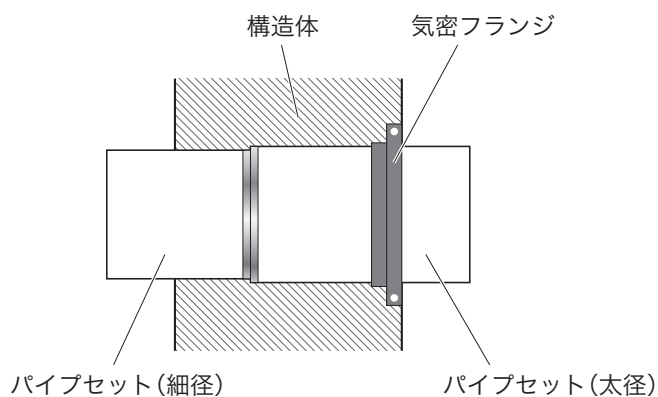
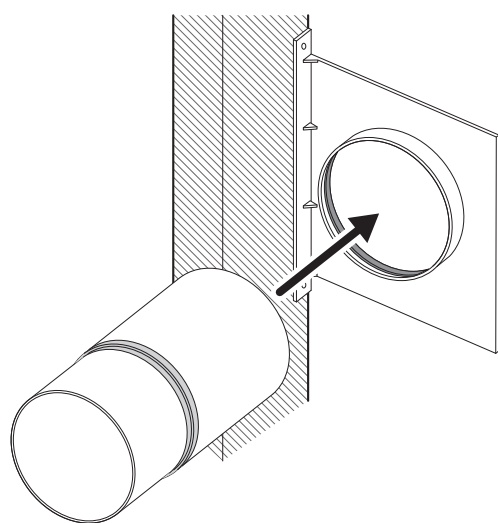
6 **全熱交換素子の出し入れ時に、パイプが伸縮するのを防ぐために、下図を参考に２か所をビスで固定します。**

固定整流翼

パイプセット（細径）

パイプセット（太径）

7 **気密フランジにパイプセットを通します。細径が室内側に、太径が屋外側になるように設置します。**

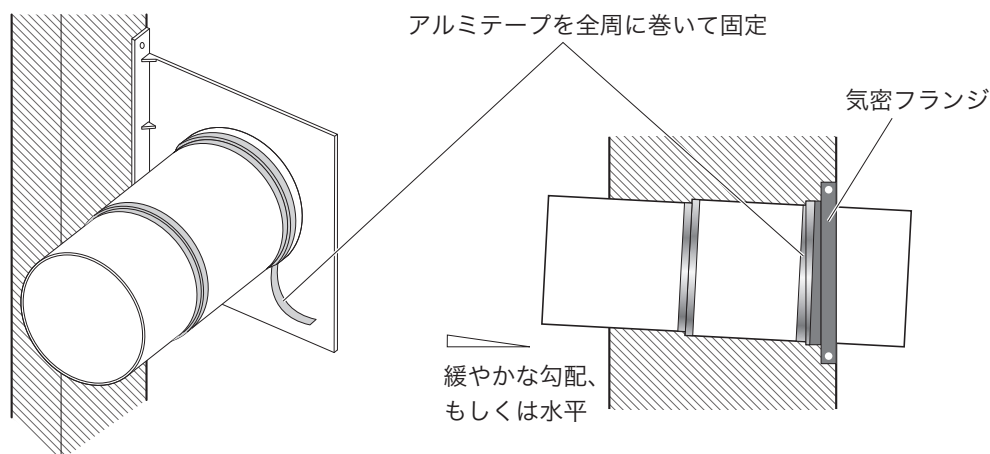
構造体

気密フランジ

パイプセット（細径）

パイプセット（太径）

8 **雨水等の侵入を防ぐため、わずかに室内側が高くなるように[1/100]程度の緩やかな勾配もしくは、水平に取り付けます。アルミテープを使って気密フランジとパイプセットの全周を固定します。**

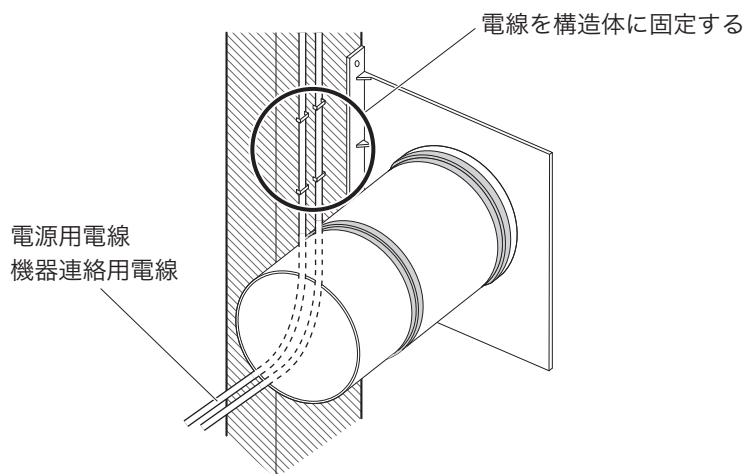
ご注意

水平に取り付ける場合は、くれぐれも逆勾配にならないように注意してください。

MEMO

- 内壁、外壁、構造用合板などのパイプが貫通する面材を貼るときは、パイプの勾配が確保されていることを確認してください。
- パイプ長が長すぎたり、勾配が急すぎると、機器本体への組み付けがしっかりとできなくなる恐れがあります。この段階でパイプ長や勾配が適切であるかを確認し、調整してから固定してください。

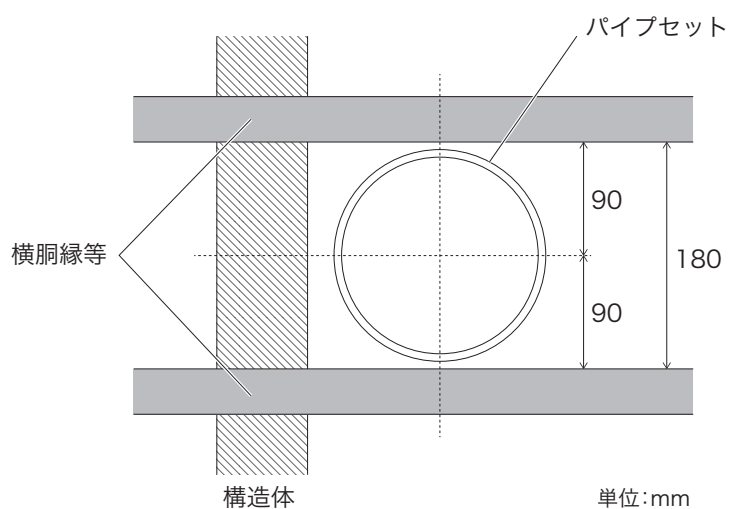
9 **電源用電線および機器連絡用電線を間柱などの構造体にステープルで留めます。**

ご注意

電線が気密層などを貫通する場合は、断熱層への湿気の流入を防ぐために、貫通部に気密処理を施してください。

10 室内側に機器本体を固定するため、下図を参考に木枠(横胴縁等)を取り付けます。

MEMO

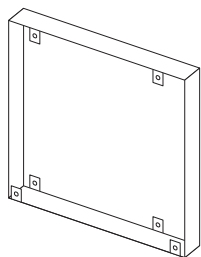
オプション品の取付枠セットを使用する場合に限り、壁面が石膏ボードの場合は、木枠を設置せずに、石膏ボード用アンカーを使用することもできます。ただし、ねじ込み式ではなく、金属製のカサが開くタイプのものをご使用ください。

パイプセット
横胴縁等
90
90
180
構造体
単位:mm

11 これで木工事の工程での作業は完了です。次に、機器本体を取り付けます。

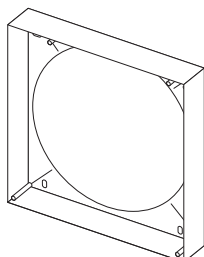
5-2. 機器本体を取り付ける（木工事完了後の作業）

木工事が完了したら、機器本体を取り付けます。取り付け方法には、以下の３種類があります。

●取付枠セット(A)を使う（オプション）

→このあとの「5-2-1.取付枠セット(A)を使用している場合」に進みます。

• 取付枠は金属製です。

●取付枠セット(B)を使う（オプション）

→P49「5-2-2.取付枠セット(B)を使用している場合」に進みます。

• 取付枠は樹脂製です。

●取付枠を使用しない

→P53「5-2-3.取付枠セットを使用していない場合」に進みます。

5-2-1. 取付枠セット(A)を使用している場合

1 内壁用面材を貼るときに、以下の処理をします。

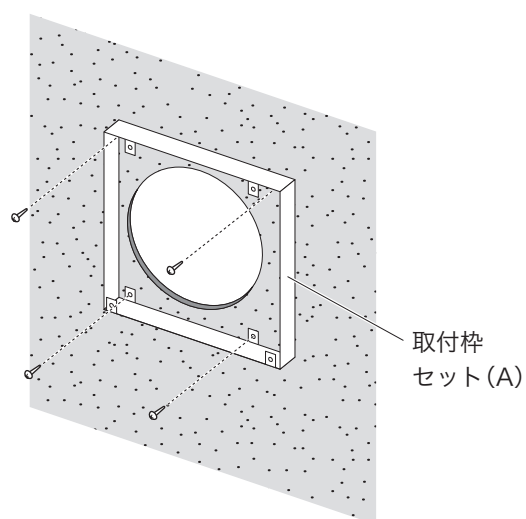
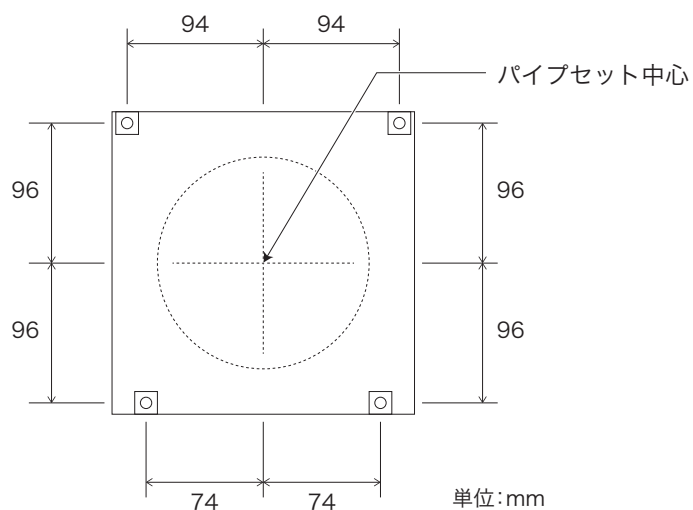
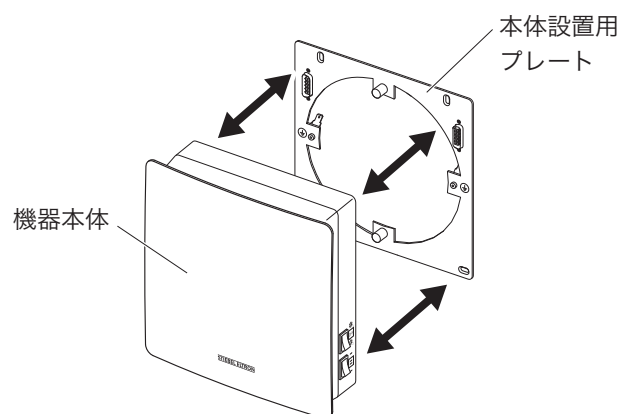
- パイプ貫通穴を開けます。
- 電線通線穴（直径10mm）を開け、配線済みの電源用電線または機器連絡用電線を引き出します。

70 20 20 70
70
20
20
70
斜線部は、電線通線範囲
パイプセット中心
単位：mm

MEMO

パイプと内壁面材にすき間がある場合は、室内への湿気の流入を防ぐため、コーキングをしてください。

外壁面のパイプ貫通部は必ずコーキングしてください(→P56手順1参照)。

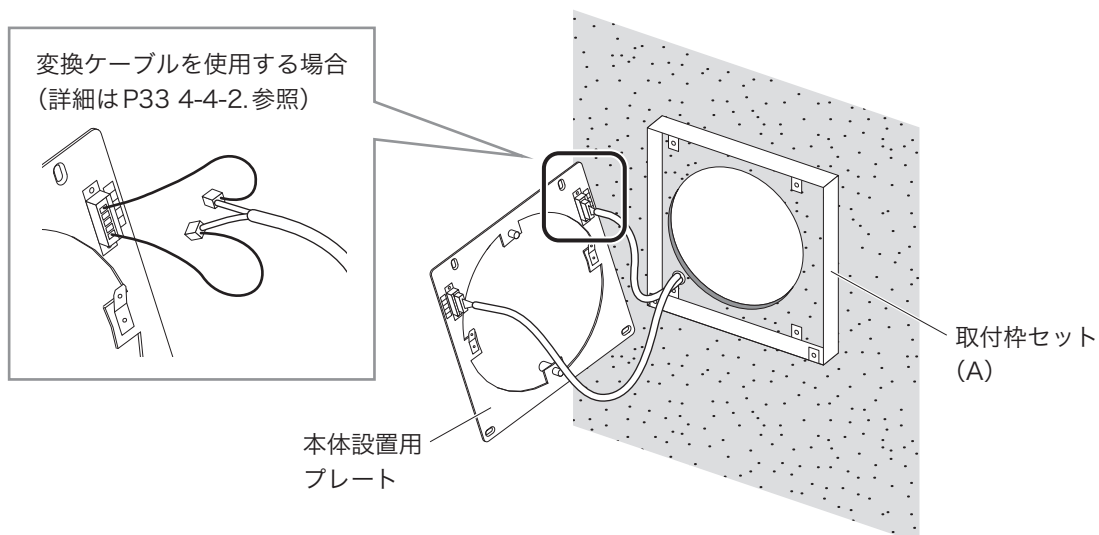
2 寸法図を参考に、取付枠セット(A)を内壁に設置します。

94 94
パイプセット中心
96 96
96 96
74 74
単位:mm
取付枠
セット(A)

3 本体設置用プレートを機器本体から外します。

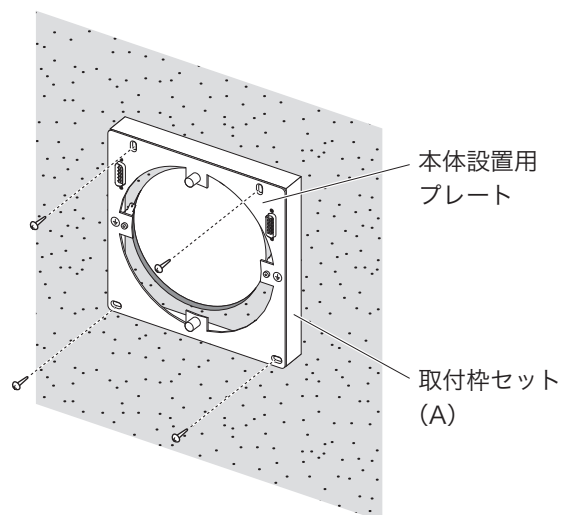
- 出荷時は、機器本体に本体設置用プレートが取り付けられた状態になっています。

本体設置用
プレート
機器本体

4 壁面から引き出した電源用電線および機器連絡用電線を、本体設置用プレートの端子に接続します。

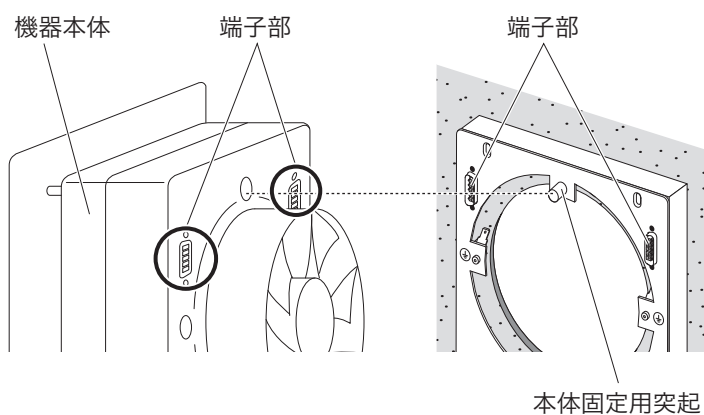
変換ケーブルを使用する場合
(詳細はP33 4-4-2.参照)
取付枠セット
(A)
本体設置用
プレート

MEMO

- 電源用電線がφ 1.6mmのままでは、本製品の端子に接続しづらい場合は、差込コネクタと変換ケーブルを使うことで接続しやすくできます。詳しくはP33「4-4-2.変換ケーブルを使用する場合の施工方法」をお読みください。
- 端子の結線方法の詳細は、P35「4-4-3.親機の結線方法」またはP36「4-4-4.子機の結線方法」を参照してください。

5 本体設置用プレートを取付枠セット(A)に固定します。

6 全熱交換素子と整流翼をセットします。

- 全熱交換素子をパイプセット内にある固定整流翼に当たる直前まで押し入れます。
- 整流翼を全熱交換素子に当たる直前まで押し入れます。
- しっかり奥まで押し込まないと、全熱交換素子が内部のファンと干渉します。

7 **本体設置用プレートの「本体固定用突起」に機器本体の位置を合わせながら、ファン部分をパイプに差し込みます。それぞれの端子部が一致するようにしながら、機器本体をしっかりと押し込みます。**

- 機器本体は、マグネットにより吸引固定されます。

8 **機器本体の設置は完了です。最後に外気フードを取り付けます。P56「5-3.外気フードの取り付け」へ進みます。**

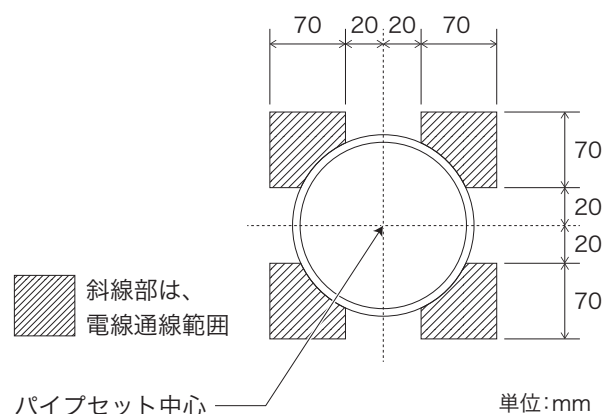
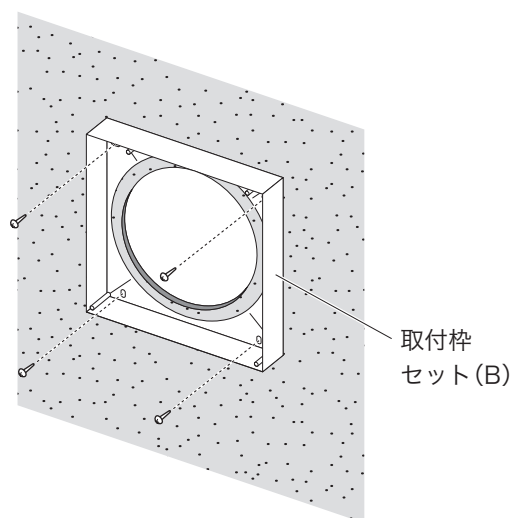
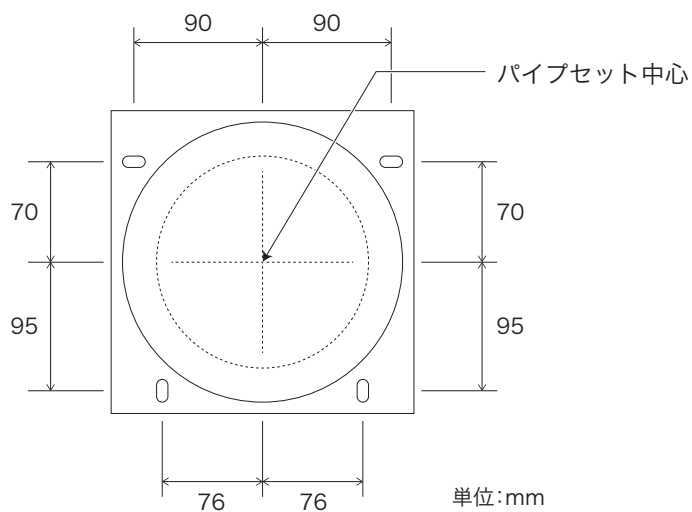
5-2-2. 取付枠セット(B)を使用している場合

1 内壁用面材を貼るときに、以下の処理をします。

- パイプ貫通穴を開けます。
- 電線通線穴（直径10mm）を開け、配線済みの電源用電線または機器連絡用電線を引き出します。

MEMO

パイプと内壁面材にすき間がある場合は、室内への湿気の流入を防ぐため、コーキングをしてください。
外壁面のパイプ貫通部は必ずコーキングしてください(→P56手順1参照)。

70 20 20 70
70
20
20
70
斜線部は、
電線通線範囲
パイプセット中心
単位：mm

2 寸法図を参考に、取付枠セット(B)を内壁に設置します。

90 90
パイプセット中心
70 70
95 95
76 76
単位：mm

取付枠
セット(B)

3 本体設置用プレートを機器本体から外します。

- 出荷時は、機器本体に本体設置用プレートが取り付けられた状態になっています。

本体設置用プレート

機器本体

4 壁面から引き出した電源用電線および機器連絡用電線を、本体設置用プレートの端子に接続します。

変換ケーブルを使用する場合
(詳細はP33 4-4-2.参照)

取付枠セット(B)

本体設置用プレート

MEMO

●電源用電線がφ1.6mmのままでは、本製品の端子に接続しづらい場合は、差込コネクタと変換ケーブルを使うことで接続しやすくできます。詳しくはP33「4-4-2.変換ケーブルを使用する場合の施工方法」をお読みください。

●端子の結線方法の詳細は、P35「4-4-3.親機の結線方法」またはP36「4-4-4.子機の結線方法」を参照してください。

5 本体設置用プレートを取付枠セット(B)に固定します。

本体設置用
プレート

取付枠セット
(B)

6 全熱交換素子と整流翼をセットします。

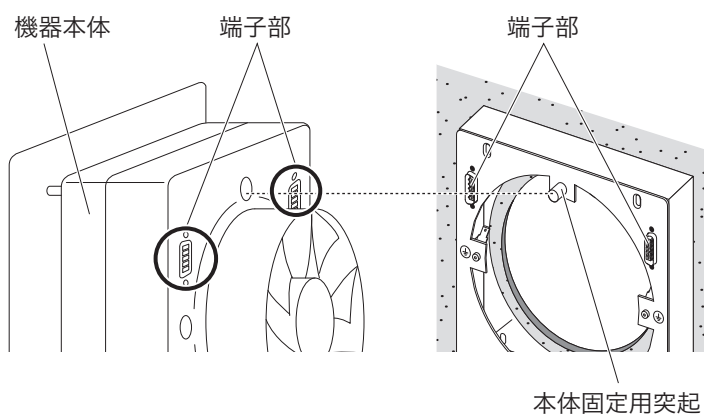
- 全熱交換素子をパイプセット内にある固定整流翼に当たる直前まで押し入れます。
- 整流翼を全熱交換素子に当たる直前まで押し入れます。
- しっかり奥まで押し込まないと、全熱交換素子が内部のファンと干渉します。

全熱交換素子

整流翼

7 **本体設置用プレートの「本体固定用突起」に機器本体の位置を合わせながら、ファン部分をパイプに差し込みます。それぞれの端子部が一致するようにしながら、機器本体をしっかりと押し込みます。**

- 機器本体は、マグネットにより吸引固定されます。

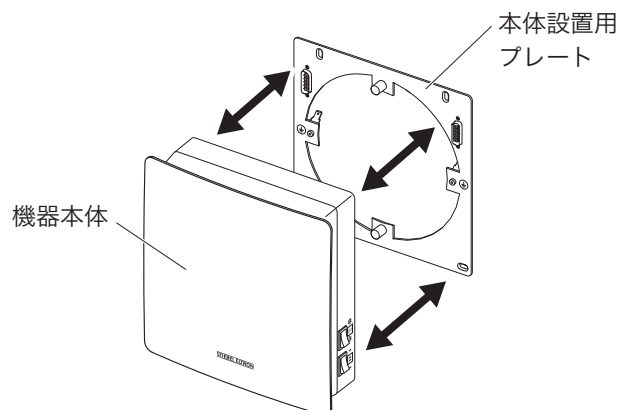
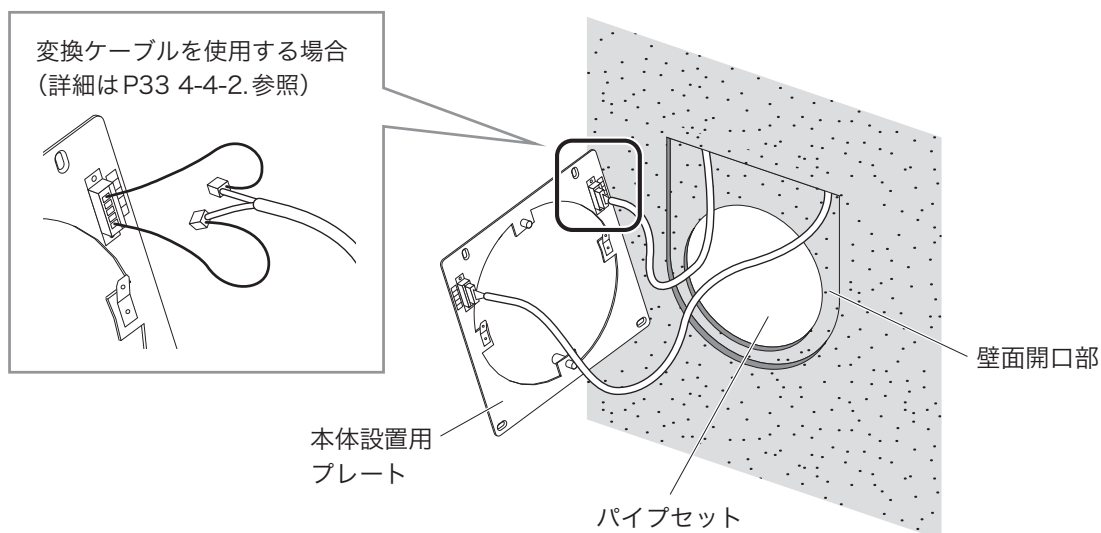
機器本体
端子部
端子部
本体固定用突起

8 **機器本体の設置は完了です。最後に外気フードを取り付けます。P56「5-3.外気フードの取り付け」へ進みます。**

5-2-3. 取付枠セットを使用していない場合

1 内壁用面材に、付属の壁固定用型紙の形状に穴を開けます。

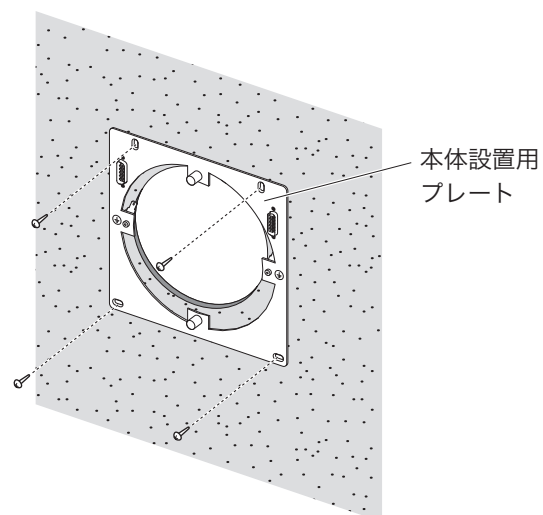
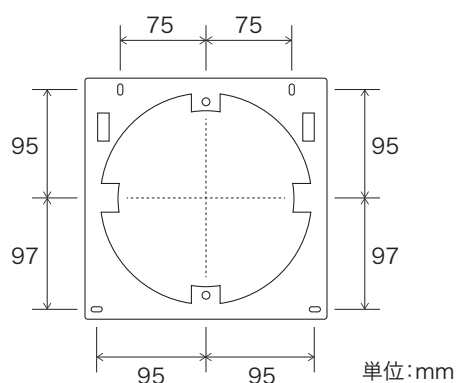
2 内壁用面材に開けた穴から電源用電線および機器連絡用電線を引き出した後、内壁面材を貼って仕上げます。

3 本体設置用プレートを機器本体から外します。

- 出荷時は、機器本体に本体設置用プレートが取り付けられた状態になっています。

4 壁面から引き出した電源用電線および機器連絡用電線を、本体設置用プレートの端子に接続します。

MEMO

●電源用電線がφ1.6mmのままでは、本製品の端子に接続しづらい場合は、差込コネクタと変換ケーブルを使うことで接続しやすくできます。詳しくはP33「4-4-2.変換ケーブルを使用する場合の施工方法」をお読みください。

●端子の結線方法の詳細は、P35「4-4-3.親機の結線方法」またはP36「4-4-4.子機の結線方法」を参照してください。

5 寸法図を参考に、本体設置用プレートを内壁に取り付けます。

75 75
95 95
97 97
95 95
単位：mm

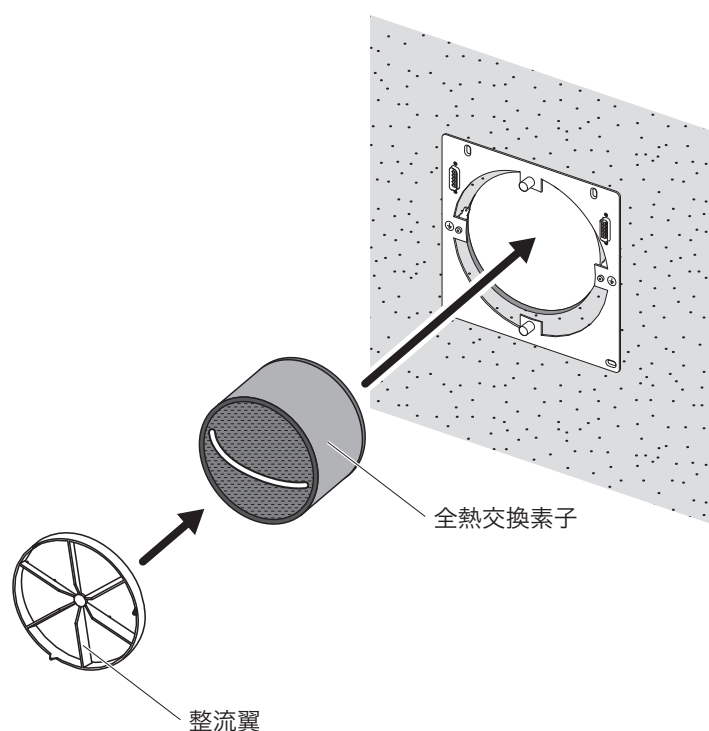
本体設置用
プレート

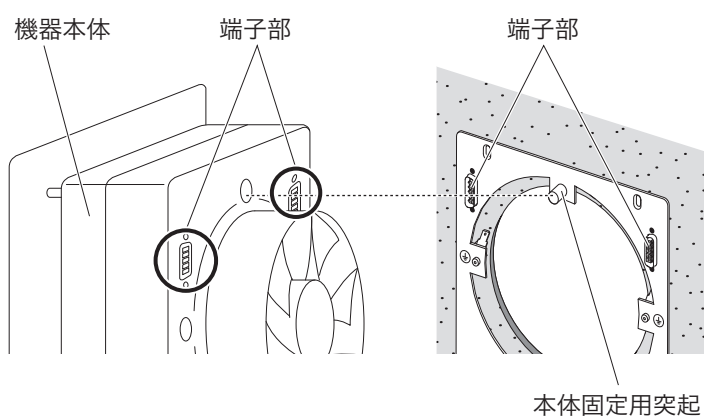
6 全熱交換素子と整流翼をセットします。

- 全熱交換素子をパイプセット内にある固定整流翼に当たる直前まで押し入れます。
- 整流翼を全熱交換素子に当たる直前まで押し入れます。
- しっかり奥まで押し込まないと、全熱交換素子が内部のファンと干渉します。

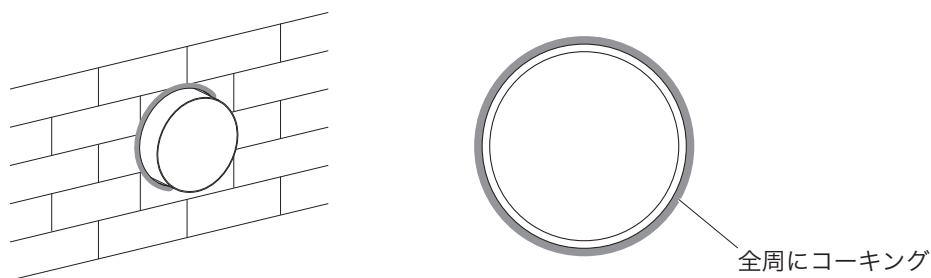
全熱交換素子

整流翼

7 本体設置用プレートの「本体固定用突起」に機器本体の位置を合わせながら、ファン部分をパイプに差し込みます。それぞれの端子部が一致するようにしながら、機器本体をしっかりと押し込みます。

- 機器本体は、マグネットにより吸引固定されます。

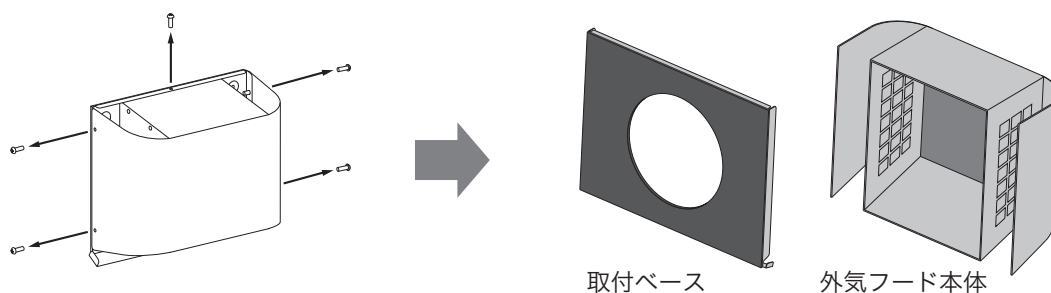
機器本体
端子部
端子部
本体固定用突起

8 機器本体の設置は完了です。最後に外気フードを取り付けます。次ページ「5-3.外気フードの取り付け」へ進みます。

5-3. 外気フードの取り付け

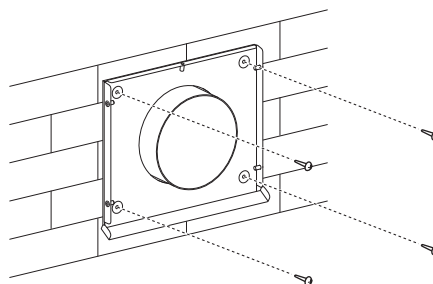
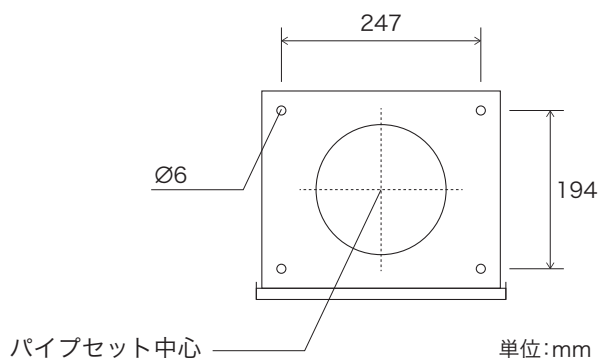
1 パイプセットのパイプと外壁のすき間を、コーキングで仕上げます。

全周にコーキング

2 オプション品の「防火ダンパー」をご使用の場合は、防火ダンパーの説明書をお読みになり、屋外側からセットしてください。

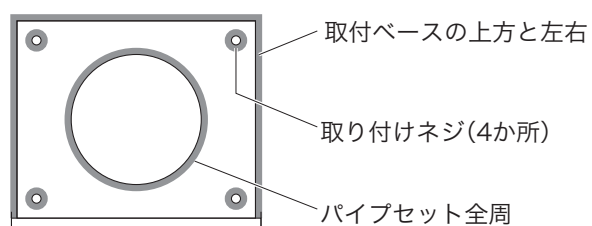
- 原則として、温度ヒューズが屋外側になるようにセットし、屋外側から点検ができるようにしてください。

3 外気フード本体のネジをはずし、取付ベースを取り外します。

取付ベース　外気フード本体

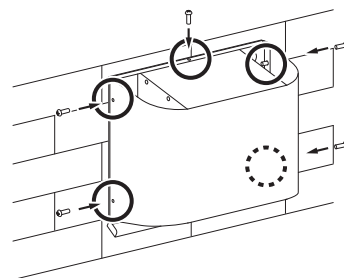
4 寸法時を参考に、取付ベースを外壁に固定します。

247
194
Ø6
パイプセット中心
単位：mm

5 以下の箇所をコーキングで防水処理します。

- 外壁面と取付ベースの間：取付ベースの上方と左右にコーキング
- パイプセットと取付ベースの間：パイプセット全周にコーキング
- 取り付けネジ：4か所にコーキング

取付ベースの上方と左右
取り付けネジ(4か所)
パイプセット全周

ご注意

必ず外気フード本体を取り付ける前に、取付ベースの周囲にコーキングしてください。外気フード本体を取り付けた後でコーキングすると、メンテナンス時に外気フード本体を取り外すことができません。

6 3で外したネジを使って外気フード本体を取付ベースに取り付けます。

保 証 書

本書は、下記〈無料修理規定〉に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。お取付け日から1年以内に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、日本スティーベルに修理をご依頼ください。

<table>
<tr><td rowspan="2">お客様</td><td colspan="2">フリガナ</td></tr>
<tr><td colspan="2">お名前　　　　　　　　　　様</td></tr>
<tr><td rowspan="2">販売店</td><td>社名　　　　印
〒
住所</td><td>取扱者
印</td></tr>
<tr><td colspan="2">電話(　　　)　　－</td></tr>
<tr><td>お取り付け日</td><td colspan="2">年　　月　　日</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>製　品</td><td colspan="2">LT–50</td></tr>
<tr><td>製造番号</td><td colspan="2">–　　–</td></tr>
<tr><td>保証期間</td><td>製品</td><td>お取り付け日から1年</td></tr>
</table>

機器はお取付け日から1 ヶ年保証です。

★お客様へ

この保証書をお受け取りになるときは、お取付年月日、販売店名、扱者印が捺印してあることを確認してください。保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

この保証書は、本書に明示した期間、次の条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

従って、この保証書によってお客さまの法律上の権利を制限するものではありません。

(無料修理規定)

1. 取扱説明書、機器に貼られているラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、表記期間無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合には、日本スティーベルにご依頼の上、修理をお受けになる時に本書をご提示ください。
3. ご転居等、取り付け場所を移動する場合は、予め日本スティーベルにご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
   - (A) 使用上の不注意、過失による不具合及び不当な修理や改造による故障や損傷の場合。
   - (B) お取付け後の移設及び取付説明書に基づいたお取付けがなされていなかったことに起因する故障、及び損傷の場合。
   - (C) 火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変、公害やガス害(硫化水素ガス)・塩害・異常電圧による故障及び損傷の場合。
   - (D) 指定外の電源(電圧・周波数)で使用した場合の故障や損傷。
   - (E) 一般の建物以外(例えば車輌・船舶・粉塵やガスの浮遊する施設)等で使用された場合の故障や損傷。
   - (F) 砂やごみ及びほこり等による不具合、故障、損傷があった場合。
   - (G) 本書の提示が無い場合、お客様名、お取付け店名、お取付け日の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
5. 以下の場合に生じた費用及び代金は、本書による無料による無料保証の対象にはなりません。
   - (A) 理由の如何を問わず、使用場所の必要換気量に対して機器の風量が不足していた場合の機器を追加する費用。
   - (B) 理由の如何を問わず、機器設置後に、不適切な設定により増加した電気代。
   - (C) 機器を設置したことによって生じた使用場所とその周辺の変色、変形、異音等の補修費用。
6. 本書は日本国内においてのみ有効です。
7. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

STIEBEL ELTRON 日本スティーベル株式会社